HP Insight Dynamics 6.0 スタートガイド

HP 部品番号: 5992-5049
2010 年 2 月
第 2 版

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 本書は内容について細心の注意をもって作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気付きの点がございましたら当社までお知らせください。
3. 当社は、お客様の誤った操作に起因する損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 当社では、本書に関して特殊目的に対する適合性、市場性などについては、一切の保証をいたしかねます。 また、備品、性能などに関連した損傷についても保証いたしかねます。
5. 当社提供外のソフトウェアの使用や信頼性についての責任は負いかねます。
6. 本書の内容の一部または全部を、無断でコピーしたり、他のプログラム言語に翻訳することは法律で禁止されています。
7. 本製品パッケージとして提供した本書や媒体は本製品用だけにお使いください。 プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。 プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

U.S. Government License Confidential computer software. Valid license from HP required for possession, use or copying. Consistent with FAR 12.211 and 12.212, Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items are licensed to the U.S. Government under vendor's standard commercial license.

著作権 ©Copyright 2006-2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書には著作権によって保護されている内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

商標

すべての HP 9000 コンピュータ上の HP-UX リリース 10.20 以降と HP-UX リリース 11.00 以降 (32 ビットと 64 ビット構成の両方) は、Open Group UNIX 95 の商標製品です。

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

Java は、Sun Microsystems, Inc. の米国の登録商標です。

Intel、インテルおよび Itanium はインテル コーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

原典

本書は、『HP Insight Dynamics 6.0 Getting Started Guide』 (HP Part No. 5992-5048) を翻訳したものです。

納入後の保証について

- 当社で定めたシステム製品については出張修理を行い、その他の製品については当社にご返却いただいた上での引取り修理となります。当社が定める地域以外における出張修理対象製品の修理は、保証期間中においても技術者派遣費が有料となります。
- ソフトウェア製品の保証は上記にかかわらず、下記に定める範囲とさせていただきます。
    - ソフトウェア製品およびマニュアルは当社が供給した媒体物の破損、資料の落丁およびプログラムインストラクションが実行できない場合のみ保証いたします。
    - バグおよび前記以外の問題の解決は、別に締結するソフトウェアサポート契約に基づいて実施されます。
- 次のような場合には、保証期間内でも修理が有料となります。
    - ― 取扱説明書等に記載されている保証対象外部品の故障の場合。
    - ― 当社が供給していないソフトウェア、ハードウェア、または補用品の使用による故障の場合。
    - ― お客様の不適当または不十分な保守による故障の場合。
    - ― 当社が認めていない改造、酷使、誤使用または誤操作による故障の場合。
    - ― 納入後の移設が不適切であったための故障または損傷の場合。
    - ― 指定外の電源 (電圧、周波数) 使用または電源の異常による故障の場合。
    - ― 当社が定めた設置場所基準に適合しない場所での使用、および設置場所の不適当な保守による故障の場合。
    - ― 火災、地震、風水害、落雷、騒動、暴動、戦争行為、放射能汚染、およびその他天災地変等の不可抗力的事故による故障の場合。
- 当社で取り扱う製品は、ご需要先の特定目的に関する整合性の保証はいたしかねます。また、そこから生じる直接的、間接的損害に対しても責任を負いかねます。
- 当社で取り扱う製品を組み込みあるいは転売される場合は、最終需要先における直接的、間接的損害に対しては責任を負いかねます。
- 製品の保守、修理用部品の供給期間は、その製品の製造中止後 5 年間とさせていただきます。

本製品の修理については取扱説明書に記載されている最寄の事業所へお問い合わせください。

目次

1 はじめに.....7
製品の構成.....7
概念および用語.....8

2 このリリースでの新機能および変更された機能.....9

3 ライセンス管理.....11
Insight Dynamics ライセンスモデル.....11
トライアルライセンス.....11
エンドユーザーライセンス契約.....12
HP ProLiant サーバーおよび ProLiant サーバーブレード.....13
HP Integrity および HP 9000 サーバーならびに Integrity サーバーブレード.....13
HP 製以外のサーバー.....14
HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア.....14
ライセンスの追加および適用.....15
ライセンスを適用する順序.....15
HP SIM ライセンスマネージャーの使用.....16
Integrity ライセンスの配備.....19
HP-UX ライセンスのスキャン.....21
HP Instant Capacity 製品を使用しているシステムのライセンス要件.....21

4 Insight Dynamics の使用の準備.....23
権限昇格の構成.....23
Managed System Setup Wizard の使用.....23
不要なエージェントソフトウェアの削除.....23

5 Insight Dynamics の使用.....25
HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア.....25
論理サーバー.....25
HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア.....26
HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア.....26
HP Insight Orchestration ソフトウェア.....27
Insight Orchestration Designer.....28
Insight Orchestration コンソール.....28
Insight Orchestration Self-Service Portal.....28
Insight Operations Orchestration.....29
HP Insight Recovery ソフトウェア.....29
HP Storage Provisioning Manager.....30
Application Discovery.....31
HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用).....31
HP Instant Capacity Manager.....31
Partition Manager.....32
Integrity Virtual Machines Manager.....32

6 トラブルシューティング.....33
メモリおよびその他のシステム要件.....33
Insight Managed System Setup Wizard.....33

[診断] メニューアクション....33
CMS 構成のチェック....33
CMS と管理対象ノードの通信チェック....34
管理対象ノードの構成チェック....35
vseassist コマンド....36

7 サポートおよび他のリソース....37
当社への連絡....37
関連情報....37
マニュアルとホワイトペーパー....37
インストールと構成: Microsoft Windows CMS....38
インストールと構成: HP-UX CMS....38
Insight Dynamics の使用....39
Web サイト....39
情報と解決策....39
製品....39
コマンドリファレンス (マンページ)....40
CMS にインストールされているリファレンスページ....40
管理対象システムにエージェントソフトウェアとともにインストールされるリファレンスページ....41
セルベースのコンプレックスにインストールされるリファレンスページ....41
HP Integrity Virtual Machines を実行するシステムにインストールされるリファレンスページ....41
選択される HP Systems Insight Manager ソフトウェアのリファレンスページ....42
表記規約....42

コマンドリファレンス....45
vseassist(1M)....46
vseinitconfig(1M)....51
vselicense(1M)....59

用語集....65

索引....69

第1章 はじめに

本書では、Insight Dynamics の機能、ライセンス管理、およびトラブルシューティングの概要を説明します。また、関連のマニュアルへのリンクも記載しています。本書は、データセンターの運用、管理、計画に携わるシステム管理者およびその他の技術者の方々を対象としています。

HP Insight Dynamics スイートは、アダプティブ・インフラストラクチャの継続的な分析と最適化を可能にする統合コマンドセンターです。これは、HP Systems Insight Manager (HP SIM)、HP Insight Control スイートなど、HP インフラストラクチャ管理ポートフォリオをベースに構築されています。Insight Dynamics は、**論理サーバー**、**仮想マシン**、**サーバーブレード**、nPartitions、**仮想パーティション**、アプリケーション、および**ワークロード**を管理するための統合グラフィカル環境を提供します。サービスレベル目標やビジネス要件に基づいて、仮想サーバーのサイズを動的に変更でき、リソースを必要な場所に移行できます。

注記: 以前のリリースでは、Insight Dynamics の Integrity バージョンは、HP Virtual Server Environment のコンポーネントの 1 つとして、VSE Management Software と呼ばれていました。

Insight Dynamics ソフトウェアは、HP SIM を実行する**中央管理サーバー**（CMS）にインストールされます。HP SIM は、ブラウザーベースのユーザーインターフェイスを提供します。1 台の CMS で、各種タイプのシステムを管理できます。購入する**管理対象システム**のライセンスの数や種類とは関係なく、ソフトウェア自体は CMS に 1 度だけインストールします。

Microsoft Windows を実行する CMS では、Insight Dynamics は Insight ソフトウェアファミリ製品の一部としてインストールされます。セキュリティの推奨事項、含まれる製品の概要、ドキュメントの予定など Insight ソフトウェアの概要については、『HP Insight Software 6.0 お使いになる前に』を参照してください。インストールおよび構成については、『HP Insight Software 6.0 プリインストールワークシート』、『HP Insight Software 6.0 クイックインストールガイド』、および『HP Insight Software 6.0 インストール/コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

HP-UX を実行する CMS でのインストールについては、『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』を参照してください。

重要: Integrity CMS では、msswinitconfig コマンドの実行は、このソフトウェアをインストールし HP SIM を構成した後、vseinitconfig の実行の前に行う必要があります。この手順で行われない場合には、vseinitconfig でエラーメッセージが発生します。詳細は、『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』を参照してください。

サポートされるハードウェア構成およびソフトウェア構成についての詳細は、『HP Insight Software 6.0 サポートマトリックス』を参照してください。

Insight Dynamics の他のマニュアル、およびマニュアルを入手できる Web サイトへのリンクの一覧については、「関連情報」 (37 ページ) を参照してください。

製品の構成

Insight Dynamics は、管理対象システムごとにライセンスが付与さます。次の表に示すように、管理対象のシステムのタイプの違いに合わせて、各種の Insight Dynamics スイートライセンスが用意されています。管理対象システムのライセンスは、CMS に保存され管理されます。Insight Dynamics ライセンスの追加および適用についての詳細は、「ライセンス管理」(11 ページ) を参照してください。

重要: このテーブルは、内容を大まかにまとめたものです。サポートされるハードウェア構成およびソフトウェア構成についての具体的な情報は、http://www.hp.com/go/insightcontrol-manuals の『HP Insight Software 6.0 サポートマトリックス』に記載されています。

スイートライセンス	サポートされる管理対象システム	CMS プラットフォーム
HP Insight Dynamics suite for ProLiant	• Microsoft Windows または Linux を実行する HP ProLiant サーバー • Microsoft Windows または Linux を実行する HP BladeSystem c-Class ProLiant サーバーブレード • HP ProLiant ホスト上の VMware ESX、VMware ESXi、または Microsoft Hyper-V で稼働する**仮想マシン**および **VM ホスト**	• Microsoft Windows を実行する HP ProLiant サーバー • Microsoft Windows を実行する HP BladeSystem c-Class ProLiant サーバーブレード • HP ProLiant または一部の非 HP 製ホスト上の VMware ESX または Microsoft Hyper-V で稼働する Microsoft Windows 仮想マシン
HP Insight Dynamics suite for non-HP servers	• 一部の非 HP 製ホスト上の VMware ESX、VMware ESXi、または Microsoft Hyper-V で稼働する仮想マシンおよび VM ホスト • Microsoft Windows または Linux を実行する一部の非 HP 製サーバー	
HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity	• HP-UX、HP OpenVMS、Integrity Linux、または Microsoft Windows for Integrity を実行する HP Integrity サーバー • HP-UX、HP OpenVMS、Integrity Linux、または Microsoft Windows for Integrity を実行する HP Integrity サーバーブレード • HP-UX、Integrity Linux、または Microsoft Windows for Integrity を実行する **nPartitions** • HP Integrity Virtual Machines で稼働する仮想マシン • **vPars モニター**で稼働する**仮想パーティション**	• Microsoft Windows を実行する HP ProLiant サーバー • Microsoft Windows を実行する HP BladeSystem c-Class ProLiant サーバーブレード • HP ProLiant または一部の非 HP 製ホスト上の VMware ESX または Microsoft Hyper-V で稼働する Microsoft Windows 仮想マシン • HP-UX を実行する HP Integrity サーバー • HP-UX を実行する HP Integrity サーバーブレード • HP Integrity Virtual Machines で稼働する HP-UX 仮想マシン

概念および用語

Insight Dynamics では、多くの HP 仮想化テクノロジーが使用されます。このソフトウェアを効果的に使うためには、仮想化の概念および用語に精通している必要があります。主な用語の定義は、「用語集」 (65 ページ) を参照してください。用語集に記載されている用語は、最初に登場するときに斜体で記述されています。電子版の場合は、斜体の用語をクリックすると用語の定義を表示することができます。

第2章　このリリースでの新機能および変更された機能

Insight Dynamics 6.0 では、Insight Dynamics – VSE suite for ProLiant および VSE Management Software for Integrity の以前のバージョンから重要な新機能がいくつか追加されました。以下の一覧は、このリリースでの主な変更点の簡単な説明です。このリリースでの変更点の詳細は、『HP Insight Dynamics 6.0 リリースノート』、および「マニュアルとホワイトペーパー」(37 ページ)に記載されているユーザーガイドを参照してください。

- Insight Dynamics for ProLiant には、64 ビット CMS サポート、32 ビットから 64 ビットへの CMS 移行ツール、および一部の非 HP 製サーバーに対するサポートが含まれるようになりました。
- 新しい Insight Managed System Setup Wizard では、エージェントソフトウェアのインストール、ライセンスの割り当て、および選択した管理機能に必要なその他の構成など、管理対象システムの構成を簡単に行うことができます。詳細は「Managed System Setup Wizard の使用」(23 ページ)を参照してください。
- HP Insight Orchestration ソフトウェアが Microsoft Windows 管理対象システムの Insight Dynamics に含まれるようになりました。Integrity システムの場合、HP Insight Orchestration ソフトウェアはオプションで使用できます。Insight Orchestration では、共有リソースプールのインフラストラクチャサービスの迅速なプロビジョニングおよび目的変更を行うことができます。詳細は「HP Insight Orchestration ソフトウェア」(27 ページ)を参照してください。
- HP Insight Recovery ソフトウェアが Microsoft Windows 管理対象システムの Insight Dynamics に含まれるようになりました。Insight Recovery は、物理サーバーまたは仮想サーバーで稼働する論理サーバーに対してディザスタリカバリのソリューションを提供します。詳細は「HP Insight Recovery ソフトウェア」(29 ページ)を参照してください。
- HP Storage Provisioning Manager (SPM) が Microsoft Windows 管理対象システムの Insight Dynamics に含まれるようになりました。SPM は、共通ストレージプールを使うストレージタスクの管理を安全に自動化します。詳細は「HP Storage Provisioning Manager」(30 ページ)を参照してください。
- Application Discovery では、より包括的にリソースを管理できるようになり、拡張性が向上しました。
- HP Insight Capacity Advisor ソフトウェアでは、いくつかの新機能が提供されます。たとえば、Linux スタンドアロンサーバーからのエージェントレスデータ収集、追加のメトリック、新しいレポートオプション、VMware DRS クラスターのシミュレーションのサポート、モデリング精度の向上、シナリオ作成ウィザードの拡張などがあります。
- HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) では、詳細レポートウィザードが提供されるようになりました。
- HP Insight Virtualization Manager ソフトウェアでは、新しいタイプのサーバーおよび仮想マシンのサポート、`root` 以外のユーザーアカウントを使用して `root` として管理対象システムにアクセスするための権限昇格、および仮想化タブでの新機能が提供されます。
- **論理サーバー**のサポートが強化され、テクノロジーの拡張と、より使いやすい機能が含まれるようになりました。
- `vseassist` ユーティリティは拡張され、新しい構成チェックが含まれるようになりました。また、インストールされている場合は `ioassist` および `wbemassist` をサポートするようになりました。
- HP Integrity Virtual Machines Manager は、HP Integrity Virtual Machines 4.1、ホストからホストへの仮想マシンの移行、およびその他の新機能をサポートするようになりました。詳細は「Integrity Virtual Machines Manager」(32 ページ)を参照してください。

第3章　ライセンス管理

この章では、ライセンスモデル、Insight Dynamics で使用できるライセンスタイプ、およびライセンスの追加方法と適用方法について説明します。以下の項の表に、Insight Dynamics の各ライセンスでサポートされているハードウェアプラットフォームとオペレーティングシステムをまとめます。Insight Dynamics でサポートされるハードウェア構成およびソフトウェア構成の詳細は、http://www.hp.com/go/insightcontrol-manuals の『HP Insight Software 6.0 サポート マトリックス』を参照してください。

Insight Dynamics ライセンスモデル

Insight Dynamics では、**管理対象システム**での使用について、次の表に示す単位や方法でライセンスが適用されます。ライセンスは、中央管理サーバー (CMS) から、HP SIM ライセンスマネージャーデータベースを使って管理されます。

注記:　インストール状況に応じて、追加の製品ライセンスが必要になることがあります。

システムタイプ	ライセンス要件[1]
HP Integrity サーバー	CPU **ソケット**または**コア**単位のライセンス [2]
HP 9000 サーバー	CPU ソケットまたはコア単位のライセンス[2]
HP ProLiant ML/DL サーバー	システムごとのライセンス
HP BladeSystem c-Class エンクロージャー	必要な、あるいは使用できるエンクロージャーライセンスはありません。個々のサーバーブレードにライセンスを適用します。
HP BladeSystem c-Class ProLiant サーバーブレード	ブレードごとのライセンス
HP Integrity サーバーブレード	CPU ソケットまたはコア単位のライセンス[2]
以下のいずれかで稼働する仮想マシン • HP Integrity Virtual Machines • VMware ESX • VMware ESXi • Microsoft Hyper-V	ホストサーバーのライセンスに含まれます

1　HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェアライセンスは、システムタイプにかかわらず、常にシステムごとにライセンスが付与されます。「HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア」(14 ページ)を参照してください。

2　トライアルライセンスはシステムごとに付与されます。「トライアルライセンス」(11 ページ)を参照してください。

Insight Dynamics の恒久的な使用権 (LTU) を取得する場合は、当社の営業担当、サービス担当、あるいは公認の販売代理店にお問い合わせください。利用できるライセンスは、以下の各項で示します。

購入したライセンスを使用するには、CMS 上の HP SIM ライセンスマネージャーデータベースに追加して、管理対象システムに適用する必要があります。詳細は「ライセンスの追加および適用」(15 ページ)を参照してください。

トライアルライセンス

次のトライアルライセンスを利用できます。

- Insight Dynamics を CMS にインストールすると、HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity の 10 個のトライアルライセンスがライセンスマネージャーデータベースに格納されます。これらのライセンスを HP Integrity システムおよび HP 9000 システムに適用す

ることができます。各トライアルライセンスの有効期間は、管理対象システムに適用されてから 90 日間です。トライアル期間が経過した後も継続的にシステムを管理できるようにするには、恒久ライセンスを購入する必要があります。

トライアルライセンスを管理対象システムに適用するには、Insight Managed System Setup Wizard を使用するか、または `vselicense` コマンドを実行します。HP SIM ライセンスマネージャーによって適用することはできません。Managed System Setup Wizard の詳細は、『Insight Managed System Setup Wizard スタートガイド』を参照してください。`vselicense` の詳細は、vselicense(1M) (59 ページ) を参照してください。

重要: 以前のバージョンのソフトウェア (VSE Management Software 4.*) ですでに有効にされていた Integrity トライアルライセンスは、現在のリリースにアップグレードするときに引き継がれません。古い Integrity トライアルライセンスが適用されていた管理対象システムは、アップグレード後はライセンスなしの状態になります。新しいトライアルライセンスを再度システムに適用するには、Insight Managed System Setup Wizard、または `vselicense` コマンドを使用します。

- 10 台の管理対象システム用の HP Insight Dynamics suite for ProLiant のトライアルライセンスは、当社に登録することにより取得できます。このトライアルライセンスの取得については、当社の営業担当、サービス担当、あるいは公認の販売代理店にお問い合わせください。

HP SIM ライセンスマネージャーを使用して、トライアルライセンスのステータスを表示できます。ライセンスマネージャーについての詳細は、「HP SIM ライセンスマネージャーの使用」(16 ページ) を参照してください。

エンドユーザーライセンス契約

Insight Dynamics を使用する場合は、ソフトウェアに付属のエンドユーザーライセンス契約の条項に従う必要があります。CMS にインストールされた場所にあるこのドキュメントをお読みください。

HP-UX CMS	`/opt/vse/src/README`
Microsoft Windows CMS	*`installation-directory`*`\src\README` デフォルトのインストールディレクトリは `C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment` ですが、インストール時にこのディレクトリを変更することもできます。

HP ProLiant サーバーおよび ProLiant サーバーブレード

ライセンス名	ライセンス製品	管理対象システムの OS
HP Insight Dynamics suite for ProLiant	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア • HP Insight Control server migration • HP Insight Orchestration ソフトウェア • HP Insight Recovery ソフトウェア	• Microsoft Windows • Linux

注記

- HP Insight Control のライセンスも必要です。Insight Control のライセンスには、HP Insight Control virtual machine management、HP Insight Control server migration、HP Insight Control power management、および HP Integrated Lights-Out Advanced が含まれています。
- 論理サーバー管理は、Microsoft Windows を実行する CMS でのみサポートされます。
- BladeSystem エンクロージャーでサーバーブレード上の論理サーバーを管理するためには HP Virtual Connect Enterprise Manager ソフトウェアのライセンスが必要です。

HP Integrity および HP 9000 サーバーならびに Integrity サーバーブレード

ライセンス名	ライセンス製品	管理対象システムの OS
HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア • HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) • HP Insight Control virtual machine management	• HP-UX
HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Control virtual machine management	• HP-UX • Microsoft Windows for HP Integrity • Linux for HP Integrity
HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア • HP Insight Control virtual machine management	• HP-UX • Microsoft Windows for HP Integrity • Linux for HP Integrity

ライセンス名	ライセンス製品	管理対象システムの OS
HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用)	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) • HP Insight Control virtual machine management	• HP-UX

注記

- 論理サーバー管理は、Microsoft Windows を実行する CMS でのみサポートされます。
- BladeSystem エンクロージャーでサーバーブレード上の論理サーバーを管理するためには HP Virtual Connect Enterprise Manager ソフトウェアのライセンスが必要です。
- Integrity 用 HP Insight Orchestration ソフトウェアのライセンスは、HP-UX VSE および DC オペレーティング環境に含まれています。
- Virtualization Manager メーターおよびキャパシティプランニングのための電力詳細情報を収集するには、Integrity iLO 2 Advanced のライセンスをお勧めします。

HP 製以外のサーバー

ライセンス名	ライセンス製品	管理対象システムの OS
HP Insight Dynamics suite for non-HP servers	• HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア • HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア • HP Insight Control virtual machine management • HP Insight Orchestration ソフトウェア • HP Insight Recovery ソフトウェア	• Microsoft Windows • Linux

注記

- 論理サーバー管理は、Microsoft Windows を実行する CMS でのみサポートされます。
- HP Insight Recovery ソフトウェアのライセンスはスイートに含まれますが、Insight Dynamics のこのリリースでは、Insight Recovery は HP 製以外のサーバーではサポートされません。

HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア

HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェアライセンスを使用すると、統合を計画しているシステムからデータを収集して分析することが可能になります。このライセンスは、HP Insight Capacity Advisor ソフトウェアまたは Insight Dynamics のライセンスのない管理対象システムでのみ必要です。

ライセンス名	ライセンス製品	管理対象システム
HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア	HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア	HP-UX 11i、Microsoft Windows for Integrity、*x*86 ベースの Microsoft Windows Server、または Linux を実行しているサーバー

注記

- ライセンスは、システムに割り当てられてから 6 ヶ月間有効です。
- HP Insight Virtualization Manager ソフトウェアのライセンスは**含まれません**。このライセンスしかないシステムは、Virtualization Manager で表示できません。

ライセンスの追加および適用

購入したライセンスを使用するには、まず CMS 上の HP SIM ライセンスマネージャーデータベースに追加して、対象の管理対象システムに適用する必要があります。CMS は、管理対象システムに適用できる各タイプのライセンス数を追跡します。ライセンスを適用すると、適用できるライセンスの数は減ります。

注記: HP Insight Virtualization Manager ソフトウェアでは、ライセンスが付与されていないシステムは表示されません。ライセンスが付与されていないシステムがある場合は、Virtualization Manager が起動時にツールバーにアラートを表示します。このアラートをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

以下のシステムにはライセンスが付与されていない、あるいはライセンスの期限が切れているので、`Virtualization Manager`**に無視されました…**

VM ホストに関連付けられていない仮想マシンのライセンスの状態は、Insight Dynamics では判断できません。この場合、次のようなメッセージが表示されます。

以下の仮想マシンは`VM`**ホストに関連づけられていないので、ライセンス供与に関するステータスを特定できません。これらは、**`Virtualization Manager`**では無視されます…**

Insight Managed System Setup Wizard を使って Insight Dynamics のライセンスを追加および適用することをお勧めします。Managed System Setup Wizard を起動するには、HP SIM トップメニューから**[設定]→[Managed System Setup Wizard...]**を選択します。ウィザードの各手順にヘルプが提供されています。Managed System Setup Wizard の詳細は、『Insight Managed System Setup Wizard スタートガイド』を参照してください。

HP SIM ライセンスマネージャーを使用してライセンスの追加と適用を手動で行う場合は、以降の項に記載された手順を参照してください。この手順を使って HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity のトライアルライセンスを適用することはできません。トライアルライセンスを管理対象システムに適用するには、Insight Managed System Setup Wizard を使用するか、または `vselicense` コマンドを実行します。HP SIM ライセンスマネージャーによって適用することはできません。`vselicense` の詳細は、vselicense(1M) (59 ページ) を参照してください。

注記: 以下の手順は、(Insight Dynamics および VSE Management Software のバージョン 4.0 で導入された)「5x5」キーに基づくライセンスを追加したり適用するために使います。初期のバージョンの Integrity 用 VSE Management Software、HP-UX VSE または DC オペレーティング環境の Licenses To Use (LTU) は、`vselicense` コマンドまたは「 HP-UX ライセンスのスキャン」ツールで管理します。「HP-UX ライセンスのスキャン」ツールについての詳細は、「HP-UX ライセンスのスキャン」 (21 ページ) を参照してください。

ライセンスを追加して適用するには、「HP SIM ライセンスマネージャーの使用」 (16 ページ) の手順に従います。ライセンスは、「ライセンスを適用する順序」 (15 ページ) に示す順序で適用しなければなりません。

ライセンスを追加して適用するためには、CMS の管理者権限を保有し、ライセンスを付与する管理対象システム上のツールボックスで**マスターツール**に対する権限が付与されている必要があります。HP SIM ユーザーに管理者権限を割り当てるには、**[オプション]→[セキュリティ]→[ユーザーおよび認証...]**の **[ユーザー]** タブを選択し、[CMS セキュリティの設定] オプションを有効にします。ユーザーにツールボックスの許可を与えるには、**[オプション]→[セキュリティ]→[ユーザーおよび認証...]**の **[認証]** タブを使用します。

ライセンスを適用する順序

Microsoft Windows を実行している CMS で管理されるシステムでは、適切な順序でライセンスを適用すると、処理が簡単になり、間違いが少なくなります。各管理対象システムに対して、システムタイプ別に示されている順序でライセンスを適用してください。

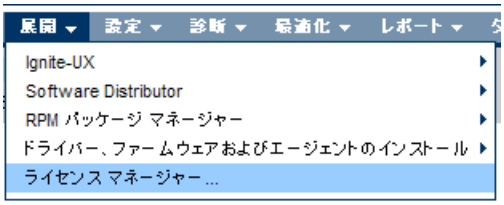
HP BladeSystem c-Class ProLiant ブレード	1. HP iLO Advanced 2. VCEM (サーバーブレードの論理サーバー管理には、エンクロージャーライセンスが必要です) 3. Insight Control 4. Insight Dynamics
HP ProLiant ML/DL サーバー	1. HP iLO Advanced 2. Insight Control 3. Insight Dynamics
HP BladeSystem c-Class Integrity ブレード	1. VCEM (サーバーブレードの論理サーバー管理には、エンクロージャーライセンスが必要です) 2. Insight Dynamics

HP SIM ライセンスマネージャーの使用

ライセンスマネージャーでは、HP SIM ライセンスマネージャーデータベースのすべての製品に対して、適用され使用できるライセンスを表示することができます。ライセンスマネージャーを使うと、新しいライセンスをデータベースに追加したり、管理対象システムにライセンスを適用することができます。HP SIM ライセンスマネージャーを使用するには、CMS 上の管理者権限が必要です。

ライセンスマネージャーを起動するには、HP SIM のメニューから**[展開]→[ライセンスマネージャー...]**を選択します。このメニュー選択肢は、CMS 上での管理者権限がある場合にのみ利用可能です。

図 3-1 ライセンスマネージャーの起動



ライセンスマネージャーが起動すると、製品ライセンス情報の画面が表示されます。

図 3-2 製品ライセンス情報画面

この画面から以下の手順を使って、ライセンスを追加、管理、適用します。[ライセンスマネージャー] 画面でヘルプアイコンをクリックすると、詳細なヘルプを利用できます。

手順 3-1 1 つの製品についてライセンスが付与されているシステムの表示

1. 表示されたリストから製品を選択します。
2. **ライセンス済みのシステム...**をクリックします。現在ライセンスが付与されているシステムの一覧が表示されます。

図 3-3 製品について現在ライセンスが付与されているシステムの一覧

次の製品に対して現在ライセンス済みのシステム: HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity

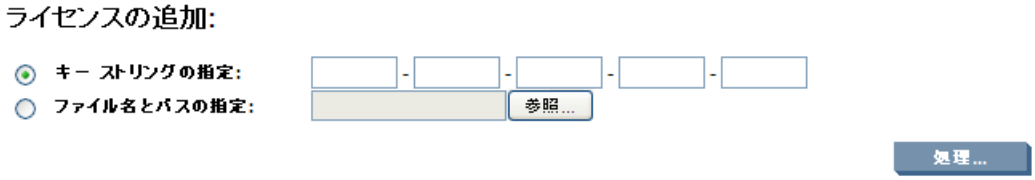
システム	シリアル番号	固有識別子	割り当て済みライセンス	使用済みライセンス	許可日数	残り日数	ライセンスカテゴリ	ライセンスソース	ステータス
zso4	[redacted]		0	1	90	90	Demo (seats and time)	Free Trial	0
zso1	[redacted]	[redacted]	0	1	90	90	Demo (seats and time)	Free Trial	0
jagged	[redacted]	[redacted]	0	1	90	90	Demo (seats and time)	Free Trial	0
jagged	[redacted]	[redacted]	0	2			Flexible Quantity	Purchased	0

3. 画面の上部にある[製品ライセンス情報]表中の製品をどれかクリックして、現在ライセンスが付与されているシステムのリストを終了します。

手順 3-2 ライセンスマネージャーデータベースへのライセンスの追加

1. **ライセンスの追加**をクリックします。[ライセンスキーの追加] コントロールが表示されます。

図 3-4 [ライセンスキーの追加] コントロール



2. 新しいライセンスキー文字列を入力します。または、複数のキーが記述された XML ファイルがある場合はファイルの絶対パスを入力します。ライセンスキーの形式は、図 3-5を参照してください。
3. 製品名、ライセンスバージョン、タイプ、購入日、およびライセンスを使用できる最大日数などのライセンスの詳細を表示するには、**処理...**をクリックします。
4. 新しいライセンスをデータベースに追加するには、**今すぐライセンスを追加**をクリックします。ライセンスが正常に追加されると、[製品ライセンス情報] セクションに表示されます。キーが無効であり、そのライセンス情報がデータベースに追加されない場合は、エラーメッセージが表示されます。

   新しいライセンスキーを追加すると、その製品で利用可能なライセンス数には、新しく追加したライセンスが含まれています。
5. 画面の上部にある [製品ライセンス情報] 表中の製品をどれかクリックして、[ライセンスの追加] コントロールを終了します。

図 3-5 XML ライセンスキーファイルの形式

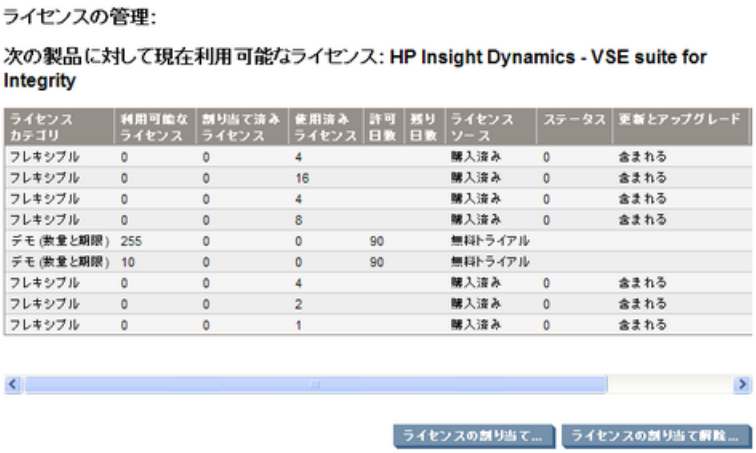
```
<KEYLIST>
<KEY>
   <KEYSTRING>5X5 key</KEYSTRING>
</KEY>
...
</KEYLIST>
```

手順 3-3 管理対象システムへのライセンスの適用

1. 表示されたリストから製品を選択します。

2. **ライセンスの管理...**をクリックします。[ライセンスの管理] 表示には、すでに割り当て済みの数、使用中の数、まだ利用可能な数などの、利用可能なライセンスのステータスが表示されます。

図 3-6 [ライセンスの管理] 表示



ライセンスカテゴリ	利用可能なライセンス	割り当て済みライセンス	使用済みライセンス	許可日数	残り日数	ライセンスソース	ステータス	更新とアップグレード
フレキシブル	0	0	4			購入済み	0	含まれる
フレキシブル	0	0	16			購入済み	0	含まれる
フレキシブル	0	0	4			購入済み	0	含まれる
フレキシブル	0	0	8			購入済み	0	含まれる
デモ (数量と期限)	255	0	0	90		無料トライアル		
デモ (数量と期限)	10	0	0	90		無料トライアル		
フレキシブル	0	0	4			購入済み	0	含まれる
フレキシブル	0	0	2			購入済み	0	含まれる
フレキシブル	0	0	1			購入済み	0	含まれる

当社とのライセンス契約によって許可されている場合、HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity のライセンスを割り当てた後、割り当ての解除と再割り当てを繰り返すことができます。この場合、**ライセンスの割り当て...**ボタンと **ライセンスの割り当て解除...**ボタンが表示されます。このようなタイプのライセンスが管理対象システムに割り当てられた場合は、**[使用されているライセンス]** 欄にリストされます。

注記: 割り当てを解除できるのは、HP SIM によって現在検出されている HP Integrity または HP 9000 システムに割り当てられたライセンスのみです。

HP Insight Dynamics suite for ProLiant および HP Insight Dynamics suite for non-HP servers のライセンスは、割り当て時に管理対象システムにロックされます。この場合、**ライセンスの割り当て...**ボタンと **ライセンスの割り当て解除...**ボタンの代わりに、**ライセンスの適用...**ボタンが表示されます。このようなタイプのライセンスがシステムに適用された場合は、**[使用されているライセンス]** 欄にリストされます。一度システムにロックされると、このライセンスの割り当てを解除したり、別のシステムに割り当てたりすることはできません。

HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェアのライセンスは、システムに割り当てられると**[割り当てられたライセンス]**欄にリストされます。実際にシステムで使われるまでは、このライセンスの割り当てを解除したり、別のシステムに割り当てたりすることは可能です。このライセンスは割り当てられたシステム上で実際に使われるとすぐに、**[使用されているライセンス]** 欄に移され、そのシステムにロックされ、割り当て解除することはできなくなります。

3. **ライセンスの適用...**または **ライセンスの割り当て...**のうち、表示されている方 (前の手順の説明を参照) をクリックします。[ターゲットシステムの選択] 画面が表示されます。名前で検索するか、リスト中から選んで、個々のシステムを選択します。ターゲット選択画面の詳細なヘルプには、この画面の?をクリックしてアクセスします。
4. 選択したシステムにライセンスを適用するには、**適用**をクリックします。[ターゲットシステムの確認] 画面が表示されます。ライセンス要件を満たしていないシステムを選択した場合は、**[ツール起動 OK?]** フィールドに、[いいえ] と [詳細の表示] リンクが表示されます。選択したシステムがこのライセンスに不適格である理由を表示するには、このリンクをクリックします。
5. オプション: **ターゲット追加...**ボタンと **ターゲット削除...**ボタンを使って、システムを追加または削除します。システムの選択についての詳細なヘルプを表示するには、ターゲットの選択および確認画面の?をクリックします。

6. 選択したシステムにライセンスを適用して先に進むには、**今すぐ実行**をクリックします。
7. HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity のライセンスの割り当てまたは割り当て解除を行っている場合には、最後の手順は [配備: HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity ライセンス] 画面で実行されます。この画面については、次の項で説明します。

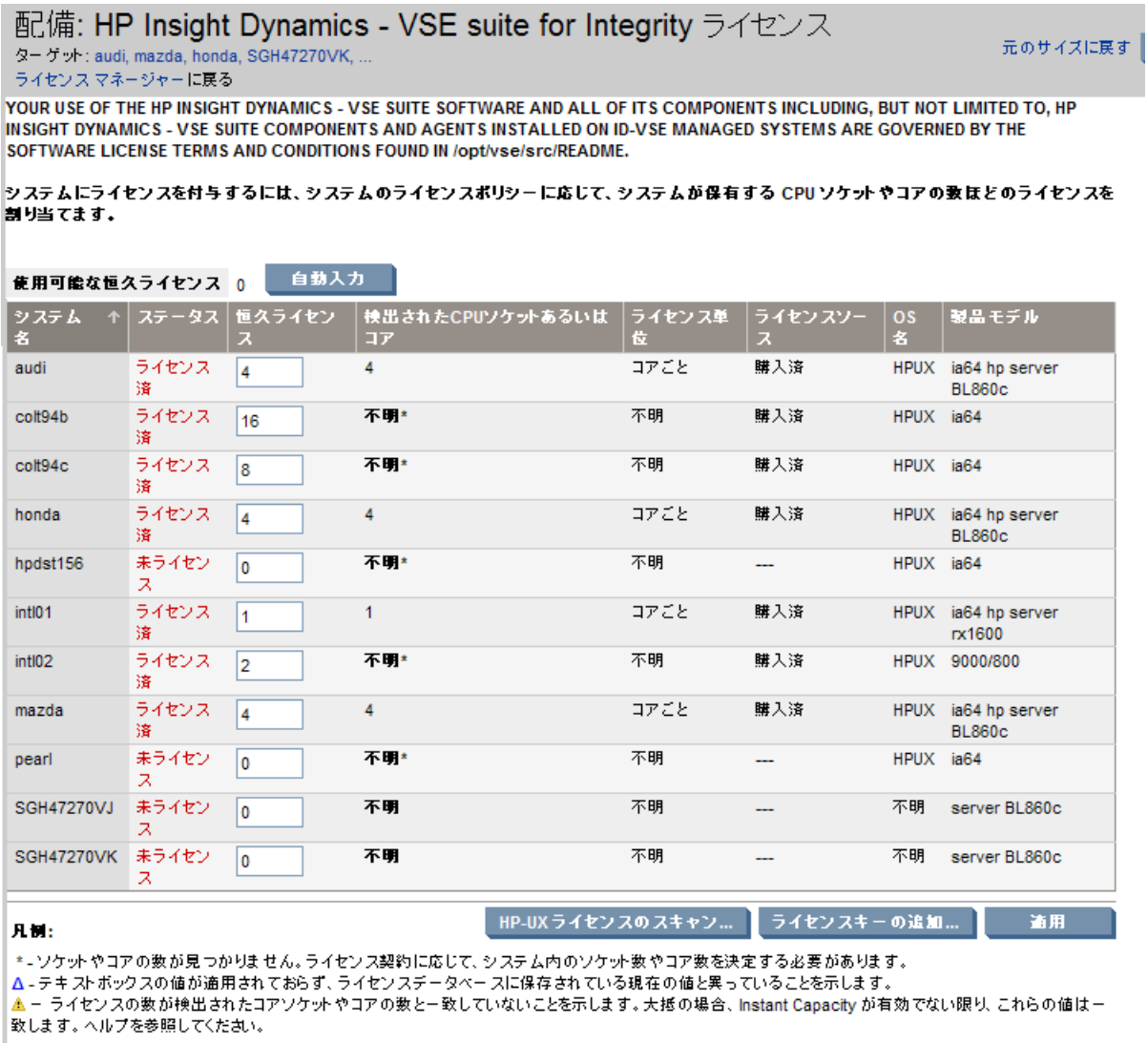
Integrity ライセンスの配備

[配備: HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity ライセンス] 画面では、Integrity 管理対象システムに Insight Dynamics のライセンスを割り当てる、またはライセンスの割り当てを解除するための最後の手順を実行します。この画面を使って、HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア、HP Insight Dynamics suite for ProLiant、または HP Insight Dynamics suite for non-HP servers のライセンスを適用することはできません。この画面を表示するには、「「ライセンスの追加および適用」 (15 ページ) 」の手順にしたがって、HP SIM ライセンスマネージャーを使います。この画面のタイトルと、適用するライセンスのタイプは、**ライセンスの管理...**をクリックする前に HP SIM ライセンスマネージャーでどのライセンスを選択したかによって決まります。たとえば、「HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用)」のライセンスを選択した場合、この画面のタイトルは、[配備: HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) ライセンス] になります。

注記: この画面を使って HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity のトライアルライセンスを適用することはできません。トライアルライセンスを管理対象システムに適用するには、Insight Managed System Setup Wizard を使用するか、または `vselicense` コマンドを実行します。HP SIM ライセンスマネージャーによって適用することはできません。Managed System Setup Wizard の詳細は、『Insight Managed System Setup Wizard スタートガイド』を参照してください。`vselicense` の詳細は、vselicense(1M) (59 ページ) を参照してください。

この画面には、適用できるライセンス数および選択されたシステムの現在のライセンスのステータスが表示されます (図 3-7を参照)。各システムに対して、システムに現在割り当てられているライセンス数が**[恒久ライセンス]**フィールドに表示されます。以下のパラグラフで説明しているように、この値を変更できます。

図 3-7 [配備: HP Insight Dynamics – VSE suite for Integrity ライセンス] 画面



配備: HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity ライセンス

ターゲット: audi, mazda, honda, SGH47270VK, ...

元のサイズに戻す

ライセンス マネージャーに戻る

YOUR USE OF THE HP INSIGHT DYNAMICS - VSE SUITE SOFTWARE AND ALL OF ITS COMPONENTS INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, HP INSIGHT DYNAMICS - VSE SUITE COMPONENTS AND AGENTS INSTALLED ON ID-VSE MANAGED SYSTEMS ARE GOVERNED BY THE SOFTWARE LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOUND IN /opt/vse/src/README.

システムにライセンスを付与するには、システムのライセンスポリシーに応じて、システムが保有する CPU ソケットやコアの数ほどのライセンスを割り当てます。

使用可能な恒久ライセンス 0 自動入力

システム名	ステータス	恒久ライセンス	検出されたCPUソケットあるいはコア	ライセンス単位	ライセンスソース	OS名	製品モデル
audi	ライセンス済	4	4	コアごと	購入済	HPUX	ia64 hp server BL860c
colt94b	ライセンス済	16	不明*	不明	購入済	HPUX	ia64
colt94c	ライセンス済	8	不明*	不明	購入済	HPUX	ia64
honda	ライセンス済	4	4	コアごと	購入済	HPUX	ia64 hp server BL860c
hpdst156	未ライセンス	0	不明*	不明	---	HPUX	ia64
intl01	ライセンス済	1	1	コアごと	購入済	HPUX	ia64 hp server rx1600
intl02	ライセンス済	2	不明*	不明	購入済	HPUX	9000/800
mazda	ライセンス済	4	4	コアごと	購入済	HPUX	ia64 hp server BL860c
pearl	未ライセンス	0	不明*	不明	---	HPUX	ia64
SGH47270VJ	未ライセンス	0	不明	不明	---	不明	server BL860c
SGH47270VK	未ライセンス	0	不明	不明	---	不明	server BL860c

凡例: HP-UX ライセンスのスキャン... ライセンスキーの追加... 適用

*- ソケットやコアの数が見つかりません。ライセンス契約に応じて、システム内のソケット数やコア数を決定する必要があります。

Δ - テキストボックスの値が適用されておらず、ライセンスデータベースに保存されている現在の値と異っていることを示します。

⚠ - ライセンスの数が検出されたコアソケットやコアの数と一致していないことを示します。大抵の場合、Instant Capacity が有効でない限り、これらの値は一致します。ヘルプを参照してください。

各システムに適用するライセンス数を入力します。Insight Dynamics のライセンスは、HP Integrity および HP 9000 サーバー上の CPU ソケットまたは**コア**ごとに適用されます (Insight Dynamics ライセンスモデルの概要は、「Insight Dynamics ライセンスモデル」 (11 ページ) を参照してください)。この画面では、各システムに存在するコアまたはソケット数が表示されます (ソフトウェアがその値を特定できる場合)。システムに正しくライセンスを付与するためには、システムにあるコアまたはソケットと同じ数だけ適用しなければなりません。検出されたコアまたはソケット数に基づいて、ライセンス数を自動的に入力するには、**自動入力**をクリックしてください。

ソフトウェアがシステムに存在するコアまたはソケット数を特定できない場合、ユーザーが正しい数を判断して、適切な数のライセンスを適用する必要があります。

注記: HP Instant Capacity 製品を使用している製品については、「HP Instant Capacity 製品を使用しているシステムのライセンス要件」 (21 ページ) を参照してください。

利用できるライセンスが十分ない場合、この画面で新しいライセンスキーを追加できます。**ライセンスキーの追加...**をクリックして新しいライセンスキー文字列を入力し、**キーの適用**をクリックします。利用可能なライセンス数は、新しいライセンスキーのライセンス数だけ増えます。

HP-UX ライセンスのスキャン

以下の機能を実行するには、「HP-UX ライセンスのスキャン」タスクを使います。

- HP-UX オペレーティング環境に含まれている HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity ライセンスを有効にする。
- リリース 3.*x* またはそれ以前の VSE Management Software 用に購入した未使用のライセンスを、HP SIM ライセンスマネージャーデータベースに移行し、管理対象システムに適用する (当社とのライセンス契約で許可されている場合)。

このタスクは、管理対象システムにインストールされている Integrity 用 VSE Management Software LTU ライセンスをスキャンします。このスキャンは、ライセンスマネージャーで最初に選択したライセンスのタイプには制限されません。ライセンスマネージャーのシステム選択で他のタイプのシステムが含まれていても、このスキャンでは HP-UX システム上のライセンスだけを検出します。HP-UX ライセンスのスキャン方法と、現在は使用されていない以前のソフトウェアバージョンのライセンスからの移行方法については、vselicense(1M) (59 ページ)を参照してください。

[配備: HP Insight Dynamics – VSE suite for Integrity Licenses ライセンス] 画面にある **HP-UX ライセンスのスキャン...**をクリックします。[タスク確認] 画面で、**今すぐ実行**をクリックします。

[タスク結果] 画面には、選択されたシステムごとに以下の情報が表示されます。

ノード名	HP SIM がシステムを認識する名前。
検出されたソケットまたはコア	システム上で検出された CPU ソケットまたは**コア**の数。この画面でも説明されているように、正しい数をソフトウェアで検出できないことがあります。ユーザーの責任でソケット数またはコア数を調べ、正しい数のライセンスを適用してください。エンドユーザーライセンス契約を遵守するために、「HP-UX ライセンスのスキャン」タスクで割り当てられたコアまたはソケット数を訂正する必要があります。この数を調整する必要がある場合は、CMS 上で次のコマンドを実行します。 **`vselicense -m -c` *`count`* `-n` *`sys`*** *`count`* には、システム *`sys`* に割り当てるライセンスの正しい数を入力します。
適用されたライセンス数	[HP-UX ライセンスのスキャン] タスクは、システム上で検出した利用可能なすべてのライセンスを自動的に適用します。このタスクによってシステムに適用したライセンス数が、ここに表示されます。このソフトウェアがシステム上のソケットまたはコア数を判断できない場合は、ライセンスが 1 つ適用されます。この数が正しくない場合は、前出のパラグラフで説明したように、`vselicense` コマンドを使って数を調整します。
適用されているライセンスタイプ	このタスクにより適用されたライセンスの各タイプの名前。

これらのタスクの結果を出力するには、**印刷可能なレポートの表示**をクリックし、**[印刷]** をクリックします。

[配備: HP Insight Dynamics – VSE suite for Integrity Licenses ライセンス] 画面に戻るには、画面上部の [戻る] リンクをクリックします。

HP Instant Capacity 製品を使用しているシステムのライセンス要件

HP Instant Capacity 製品 (`iCAP`、`GiCAP`、および `TiCAP` を含む) を使用しているシステムの場合、**コンプレックス**内の (GiCAP を使用している場合は、複数のコンプレックスでの) すべ

ての nPartitionsにわたって割り当てられているライセンスの合計数が、購入したプロセッサーの合計数以上でなければなりません。

第4章 Insight Dynamics の使用の準備

権限昇格の構成

Insight Dynamics 管理機能の中には、CMS から HP-UX、Linux、および VMware ESX 管理対象システムへの特権 (root) アクセスを必要とするものがあります。権限昇格は、root アカウントでログインするのではなく、必要に応じて適切な方法で root 権限を取得することを可能にします (たとえば、sudo または PowerBroker を使用します)。

手順 4-1 Insight Dynamics で使用する権限昇格の構成

1. HP SIM トップメニューから**[オプション]→[セキュリティ]→[権限の昇格...]**を選択します。
2. **[権限の昇格を有効 - Linux および HP-UX]** を選択します (管理対象システムの OS のタイプによっては VMware ESX)。
3. メニューから権限昇格ツールのタイプを選択します。

重要: Insight Dynamics では、オプション **[この権限の昇格ツールでパスワードを要求]** はサポートされません。このオプションがチェックされていないことを確認してください。

4. **[次のユーザーを使用]** を選択し、このタイプの OS のすべての管理対象システムへのアクセスに使うユーザー名を入力します。管理対象システムで、選択したユーザーのログインを可能にする必要があります。

さらなる設定が必要になる場合もあります。たとえば、**[設定]→[エージェントの設定および修復...]**で SSH アクセスを設定したり、root 以外のユーザーのホスト認証を許可するよう管理対象システムを設定したりする必要がある場合もあります。詳細は、HP SIM のヘルプ、mxagentconfig(1M)、および Insight Dynamics のインストールと構成のガイドを参照してください。これらのマニュアルのリンクは、「関連情報」 (37 ページ) にあります。

Managed System Setup Wizard の使用

Insight Managed System Setup Wizard は、HP SIM、および Insight Dynamics などのプラグインアプリケーションがシステムを管理できるようにその対象のシステムを構成します。Managed System Setup Wizard では、いくつかのシステムを選択してそれらに対して初期構成または再構成を行うことができます。選択したシステムで使う管理機能を指定すると、Managed System Setup Wizard が各システムの現在の構成を分析して以下の機能を実行します。

- 選択した管理機能を有効にするために必要なエージェントをすべてインストールします。
- ライセンスマネージャーデータベースで使用可能なライセンスから必要なライセンスをすべて適用します。
- 選択した機能で必要となるその他の構成手順を実行します。

初期構成の後も、Managed System Setup Wizard は選択した機能や構成を変更するためにいつでも実行することができます。

Managed System Setup Wizard の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『Insight Managed System Setup Wizard 6.0 スタートガイド』を参照してください。

不要なエージェントソフトウェアの削除

Insight Dynamics または VSE Management Software の以前のインストールからアップグレードした場合は、管理対象システムによってはインストールされたエージェントが不要になっている可能性があります。このような状況は、以前はデータ収集に Utilization Provider を使用しており、現在はエージェントレスデータ収集を使用するように構成されている管理対象システムで発生します。次のようなシステムに影響があります。

- Integrity Linux または x86 Linux 管理対象システム。以前のリリースでは、これらのシステムはデータ収集に Utilization Provider を必要としていました。現在のリリースでは、こ

れらのシステムはエージェントレスデータ収集を使用するように構成されます。Utilization Providerは、Linux管理対象システム上のInsight Dynamicsではサポートされなくなりました。

- Microsoft Windows管理対象システム。ただし、Microsoft Windowsを実行するCMSを使用している場合のみ(Windowsシステムからのエージェントレスデータ収集はHP-UX CMSではサポートされていません)

これらの場合は、Managed System Setup Wizardを使用してシステムをエージェントレスデータ収集を使うように構成したときに次のようなメッセージが表示されます。

現在エージェントレスデータ収集は構成されていません。これから構成されます。
`HP Utilization Provider`**が検出されました。これは、データ収集に使用されなくなります。**
このシステムで定義されているサブ`OS`**ワークロードをすべて削除する必要があります。**

注記: すべてのサブOSワークロードは、Insight Dynamics 6.0へのアップグレード中に自動的に削除されます。

システムがエージェントレスデータ収集を使うように構成された後で、影響のあるシステムからUtilization Providerを削除することができます。

重要: Insight DynamicsはUtilization Providerをデータ収集に使いませんが、システムにインストールされている別のソフトウェア(たとえば、HP Insight Control power managementなど)は引き続きUtilization Provideを使う場合があります。このエージェントがまだ使われている場合は削除しないでください。

手順 4-2 Windows 2003 システムからの Utilization Provider の削除

1. [コントロールパネル]から、**[プログラムの追加と削除]**を選択します。
2. 「HP WMI Util Provider v1.8.1.1」(または、現在インストールされているバージョン)を選択します。
3. **[削除]**をクリックします。

手順 4-3 Windows 2008 システムからの Utilization Provider の削除

1. [コントロールパネル]から、**[プログラムと機能]**を選択します。
2. 「HP WMI Util Provider v1.8.1.1」(または、現在インストールされているバージョン)を選択します。
3. **[アンインストール]**をクリックします。

手順 4-4 Linux システムからの Utilization Provider の削除

1. コマンドシェルを `root` 権限で開きます。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
rpm -e hp-utilprovider
```

エージェントレスデータ収集の詳細は、『HP Insight Capacity Advisor 6.0 Software: ユーザーガイド』の「エージェントレスデータ収集とUPデータ収集の比較」の項を参照してください。

第5章　Insight Dynamics の使用

以下の項では、Insight Dynamics の機能と使用法について簡単に紹介しています。詳細は、「マニュアルとホワイトペーパー」 (37 ページ) に記載されているユーザーガイドを参照してください。ソフトウェア内からは、画面の右上隅にある?ボタンをクリックするとヘルプを参照できます。

HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア

Virtualization Manager は、仮想サーバー環境を視覚的に把握するためのフレームワークを提供します。ユーザーが表示権限を保有しているすべてのシステムとワークロードがグラフィカルなビューに表示されます。システム間の階層関係は[ビジュアル化]ビューに表示されます。このビューは、さまざま観点を選択することによってカスタマイズできます。[ワークロード]ビューでは、サーバーで動作中のワークロードが表示されます。どちらのビューでも現在の使用率メトリックが表示されるので、Insight Dynamics が管理するリソースの動作状況を簡単に監視することができます。

Virtualization Manager では、以下のタスクを実行できます。

- 表示する詳細レベルのカスタマイズ
- システムとワークロードの管理と構成を行うための、追加の Insight Dynamics アプリケーションへの簡単なアクセス
- 仮想サーバーおよび物理サーバーの調査
- 使用率を最適化するための、サーバーリソースの一元的な構成

以下のいずれかの方法で HP SIM から Virtualization Manager を起動します。

- HP SIM メニューバーから、**[ツール]→[Virtualization Manager....]**の順に選択します。
- 左側のナビゲーション領域にある HP SIM の **[システムおよびイベント収集]** リストから、**[システム]→[共有]→[タイプ別システム]→[すべての VSE リソース]**を選択するか、**[すべての VSE リソース]** を+アイコンをクリックして展開し、**[nPartitions]** などのサブセットを選択します。
- デフォルトのビューが「 VSE 」に設定されている HP SIM コレクションを作成し、そのコレクションを左側のナビゲーション領域で選択します。

Virtualization Manager の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『HP Insight Virtualization Manager 6.0 Software with Logical Server Management: ユーザーガイド』を参照してください。

論理サーバー

論理サーバーは構成情報のセットであり、ユーザーが作成および使用開始し、物理マシンと仮想マシン間で移動できます。論理サーバーには、サーバーでの処理に必要なリソース (たとえば、CPU コアの数やメモリの量)、ストレージファブリックやネットワークへのサーバー接続など、論理サーバーの定義と説明が含まれています。

論理サーバーは Virtualization Manager 内で管理されており、使用開始されると、ハイパーバイザーベースのソフトウェアによる仮想マシンの作成に適用されるか、HP Virtual Connect Enterprise Manager によるベアメタルサーバーブレードに適用されます。論理サーバーは、論理サーバーの作成ウィザードを使用して定義できます。あるいは、既存のサーバーブレードまたは仮想マシンのインポートを介して論理サーバーの作成と使用開始を行うこともできます。

Virtualization Manager の論理サーバー機能を使うと、次のようなタスクを実行できます。

- エンクロージャーの配置
- サーバーの負荷分散
- 定期メンテナンスまたは災害発生時のサーバーの退避

注記: 論理サーバー管理は、Microsoft Windows を実行する CMS でのみサポートされます。

論理サーバーの管理についての詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『HP Insight Virtualization Manager 6.0 Software with Logical Server Management: ユーザーガイド』を参照してください。

HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア

Capacity Advisor では、費用がかさむ可能性のあるデータセンターでの構成変更を、実際に行う前にすばやく安全にテストすることができます。Capacity Advisor を起動するには、トップメニューバーから**[ツール]→[Capacity Advisor]**を選択します。または、Virtualization Manager 内の **[Capacity Advisor]** タブを選択します。Capacity Advisor を使用すると、以下のような質問に対する答えが見つかります。

- このシステム上に追加のワークロードを処理する余裕はあるか?
- このワークロードはこのシステムに適しているか?
- これらのサーバーを仮想マシンとして単一サーバー上に統合できるか?
- リソース要求は 6 ヶ月後または来年どのようになるか?
- 実際のシステム構成またはシミュレートしたシステム構成について、冷却用の電気料金の見積りはどれくらいになるか?
- 複数の仮定シナリオを比較することによって、分析対象の代替案について何が分かるか?

Capacity Advisor は、**管理ドメイン**全体のワークロードを最適化し、サーバーリソースを最大限に利用できるように支援します。現在のサーバーリソースの管理と、ワークロードおよびリソースの変更を計画するためのシナリオ分析を提供します。これらのシナリオにより、以下の操作をシミュレートすることができます。

- システムのサイズ変更
- ワークロードのサイズ変更
- ワークロードの移動

Capacity Advisor は、以下の追加機能を提供しています。

- **レポート生成の自動化** Capacity Advisor は、データの収集と提示または分析のために多くの手作業が必要となるレポート生成を自動化します。
- **トレースベースのシミュレータ** Capacity Advisor は、特定のデータの間隔でグラフを作成することで、単一のピークに注目するよりも完全かつ正確なリソース使用率ビューを提供しています。
- **データ収集の容易さ** データは分析のためにセキュアなプロトコルを使用して自動的に収集され、中央のデータベースに格納されます。

Capacity Advisor の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『HP Insight Capacity Advisor 6.0 Software: ユーザーガイド』を参照してください。

HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア

Capacity Advisor は、統合予定のシステムについては 6 ヶ月間のライセンスでも使用できます。HP Insight Capacity Advisor Consolidation ソフトウェアには、Virtualization Manager またはその他の Insight Dynamics コンポーネントは含まれていません。このソフトウェアを使うことにより、既存のシステムに対して完全な Insight Dynamics ライセンスを必要とすることなく、データを収集および分析し、それらの統合を計画することができます。 詳細は、『HP Insight Capacity Advisor 6.0 Software: ユーザーガイド』の「データ収集と HP Insight Capacity Advisor Consolidation software」の項を参照してください。

HP Insight Orchestration ソフトウェア

HP Insight Orchestration は、HP Insight Dynamics の拡張であり、共有リソースプールのインフラストラクチャサービスの迅速なプロビジョニングおよび目的変更をセルフサービス方式のポータルを使って行うことを可能にします。Insight Orchestration は、テンプレートを使った高度な設計、プロビジョニング、およびマルチノード、マルチティアのインフラストラクチャサービスの継続的操作を提供します。

Insight Orchestration には以下が含まれます。

- 設計ツール、リソース管理ツール、およびセルフサービスツール。これらは、IT 設計者、管理者、および IT サービスのユーザーの主要な役割を支援します。
- テンプレート設計環境。サービス内のサーバーのプロビジョニングの計画を定義するために使います。
- ユーザーに割り当てられた共有リソースプールからリソースを自動的に割り当てることによる効率的なリソースの利用
- 仮想サーバーおよび物理サーバーの自動プロビジョニング。ブレードハードウェアと仮想マシンの構成、SAN ブートのサポート、オペレーティングシステムの配備、およびオペレーティングシステムのカスタマイズなどが含まれます。
- 承認、オペレーティングシステムの配備、およびストレージプロビジョニングについての既存の IT プロセスを統合する、カスタマイズ可能な Operations Orchestration ワークフロー
- プロビジョニングされたインフラストラクチャの継続的管理。インフラストラクチャサービスを拡大したり、その有効化や無効化を行います。
- プロビジョニングされ使用可能であるインフラストラクチャサービスの監視および保守のための、HP Insight Dynamics との統合

Insight Orchestration は、主に次のような場面で使用します。

- 標準化されたインフラストラクチャサービスのライブラリを作成するテンプレート設計
- 複雑なインフラストラクチャ設計の迅速なプロビジョニングおよびプロビジョニング解除
- 既存の自動タスクおよび手動タスクを Insight Orchestration の自動操作内に含める IT プロセス統合
- プロジェクトの迅速な実施
- リソースの予約、スケジュール設定、リース期間を利用したインフラストラクチャリソースの利用効率の改善

HP Insight Orchestration は、インフラストラクチャサービスの配備を自動化するために主に次の 4 つの作業を支援します。

設計	設計者はグラフィカルデザイナーを使用して、簡単なものから複雑なものまで、さまざまなインフラストラクチャテンプレートを作成します。これらのテンプレートはテスト後に公開することができ、これらを基にしてインフラストラクチャサービスを作成することができます。
プロビジョニング	セルフサービスユーザーは、既存のテンプレートを選択し、そのテンプレートに基づいて、割り当てられているリソースプールに対してインフラストラクチャのプロビジョニングを要求します。管理者は、このリクエストを承認または拒否し、進捗状況を監視することができます。
操作	管理者は、サーバー、ネットワーク、およびストレージプールの管理、仮想マシンイメージおよびソフトウェア配備ジョブの定義、セルフサービスリクエストの実施の一環としての手動プロビジョニングタスクの実行、Insight ソフトウェアを使用した管理対象環境の稼働状況および利用状況の監視を行います。
統合	設計者と管理者は、Operations Orchestration ワークフローを修正または作成して Insight Orchestration の自動操作をカスタマイズすることで、Insight Orchestration と既存の IT プロセスを統合します。また、承認プロ

セスへの関連付け、オペレーティングシステム配備とサーバー構成の拡張、SAN 管理プロセスとサーバー配備の統合も行えます。

HP Insight Orchestration ソフトウェアの詳細は、「Insight Dynamics の使用」 (39 ページ) にあるマニュアルの一覧を参照してください。

Insight Orchestration Designer

HP Insight Orchestration Designer では、設計者が、マルチサーバー、マルチティアのインフラストラクチャをドラッグアンドドロップ式のインターフェイスを使って計画および設計できます。インフラストラクチャには、仮想サーバーや c-Class ブレードを含めることができます。Insight Orchestration ユーザーは、Insight Orchestration テンプレートを使ってサービスをプロビジョニングできます。設計者は、システム管理者と協力して標準化されたインフラストラクチャテンプレートの作成と保守を行い、テンプレートが既存のリソースやビジネスニーズに合ったものであるようにします。このようなビジネス上の観点から定義された標準テンプレートセットによって、変化の激しい要件に迅速に対応することが可能になります。一般的に、設計者は次のような作業を担当します。

- 簡単なサービステンプレートの設計、およびマルチティア、マルチノードのサービステンプレートの設計
- サーバー、ストレージ、およびネットワークに関する要件の把握
- サービス作成のための、テンプレートの Insight Orchestration Self-Service Portal への公開
- リソースの管理およびレポート作成をサポートするコストおよびリソースの特定

これらの作業を実施するには、以下のような手順を行う必要があります。

1. 運用部門や業務部門の目標を満たすのに必要な要件を調査します。
2. 業務上の要件を満たすインフラストラクチャサービステンプレートを作成します。
3. 各テンプレートのプロビジョニングに必要なリソースも含めて、各テンプレートの構成要素の詳細を決定します。
4. テンプレートを公開して、業務部門が使用できるようにします。

Insight Orchestration コンソール

Insight Orchestration コンソールでは、管理者が、Insight Orchestration と、そのユーザー、テンプレート、サービス、およびリソースの全体を配備、管理、および監視することができます。また、管理者は、設計者と協力してテンプレートが既存のリソースやビジネスニーズに合ったものであるようにし、リクエストを実施または拒否します。たとえば、管理者は次のような操作を行います。

- 完了したリクエストや実行中のリクエストの状態、進捗状況、および詳細情報の表示
- 利用できるリソースの表示
- リクエストの承認または拒否
- プール管理の実行

管理者は、これらの作業を実施するために以下のような手順を行う必要があります。

- 標準化されたテンプレートと業務的予測に基づき、サービスを提供するリソースプールを作成します。
- 業務部門と協力して、Self-Service Portal へのアクセスが許可されるユーザーアカウントを登録します。
- 各セルフサービスユーザーに 1 つまたは複数のリソースプールを割り当て、ユーザーがハードウェアリソースの特定のプールにサービステンプレートを配備することを許可します。

Insight Orchestration Self-Service Portal

Insight Orchestration Self-Service Portal では、公開されているテンプレートを基にインフラストラクチャサービスを作成できます。インフラストラクチャサービスを作成するには、以下の手順を行います。

1. 公開されているテンプレートを確認し、現在の目的に合ったテンプレートを決定します。
2. 割り当てられているプールを確認し、サービスに使用するリソースを選択します。
3. サービスのプロビジョニングリクエストを発行します。
4. リクエストが承認された後は、サービスのプロビジョニングプロセスの進捗状況を監視します。

Insight Operations Orchestration

HP Operations Orchestration StudioStudio では、カスタムなワークフロープロセスを作成し、それらをインフラストラクチャサービステンプレートに結合することができます。

Insight Orchestration は、Operations Orchestration ワークフローのための統合ポイントを定義します。このワークフローは、操作に含まれるテンプレートやインフラストラクチャサービスとは関係なく、特定の操作が開始されるたびに実行されます。Insight Orchestration では、これらのいくつかの操作について基本的な Operations Orchestration ワークフローやサンプルが提供されていますが、これらの操作についてワークフローの変更や新しいワークフローの作成を行い、Insight Orchestration をビジネスプロセスに統合することもできます。

テンプレートの設計者は、1 つまたは複数の Operations Orchestration ワークフローを特定のテンプレートに関連付けることができます。特定のライフサイクル操作の前または後に実行するこのようなワークフローを設計することにより、ターゲットサーバーをその操作に合わせて調整することが可能になります。

Insight Operations Orchestration の詳細は、「Insight Dynamics の使用」 (39 ページ) にあるマニュアルの一覧を参照してください。

HP Insight Recovery ソフトウェア

HP Insight Recovery は、論理サーバー環境のディザスタリカバリを簡単に行うことができるようにします。マウスをクリックするだけで、HP Insight Recovery は、HP BladeSystem 上または仮想マシン上で動作しているアプリケーション環境を、離れた場所にあるリカバリサイトに移動します。HP Insight Recovery は、HP ストレージ環境のデータ複製機能を使ってアプリケーションデータを適切にリカバリサイトへ移動し、全体の移動が日単位ではなく秒単位で行われるようにします。Insight Recovery は、HP Integrity または HP 製以外のサーバーではサポートされません。

HP Insight Recovery 構成内に含まれる論理サーバーは、「ディザスタリカバリ (DR) 保護付き論理サーバー」と呼ばれます。DR 保護付き論理サーバーは、物理マシン (c-Class ブレード) 上、またはハイパーバイザーによってホストされる仮想マシン上で稼働できます。HP Virtual Connect 搭載の c-Class ブレード上で稼働する DR 保護付き論理サーバーは、「VC ホスト論理サーバー」と呼ばれます。ハイパーバイザーの制御下にある仮想マシン上で稼働する DR 保護付き論理サーバーは、「VM ホスト論理サーバー」と呼ばれます。

1 つの HP Insight Recovery 構成は、HP Insight Dynamics が管理する 2 つのサイトで構成されます。どの時点でも、一方のサイトがプライマリの役割を持ち、もう一方がリカバリの役割を持つように構成されます。HP Insight Recovery は、2 つのサイトに対称的に構成された論理サーバーをペアとして使います。プライマリサイトの DR 保護付き論理サーバーは、アクティブな状態であり、エンドユーザーにサービスを提供します。ペアを構成しているリカバリサイトの論理サーバーは、アクティブでない状態です。プライマリサイトでは、DR 保護付き論理サーバーのブートイメージ (アプリケーションのコードとデータを含む) が HP StorageWorks EVA または XP ディスクアレイボリュームに置かれます。このプライマリサイトのボリュームは、リカバリサイトの HP StorageWorks EVA または XP ディスクアレイに複製されます。複製されたリカバリサイトの各ボリュームは、それぞれペアを構成しているリカバリサイトの DR 保護付き論理サーバーに関連付けられます。

プライマリサイトで災害が発生した場合は、リカバリサイトの管理者が HP Insight Recovery で提供されるプッシュボタンによってサイトのフェイルオーバーを開始できます。これにより、リカバリサイトの DR 保護付き論理サーバーに関連付けられているストレージが読み書き

できるように準備され、リカバリサイトの論理サーバーがアクティブになります。リカバリサイトの役割は、プライマリに変更されます。

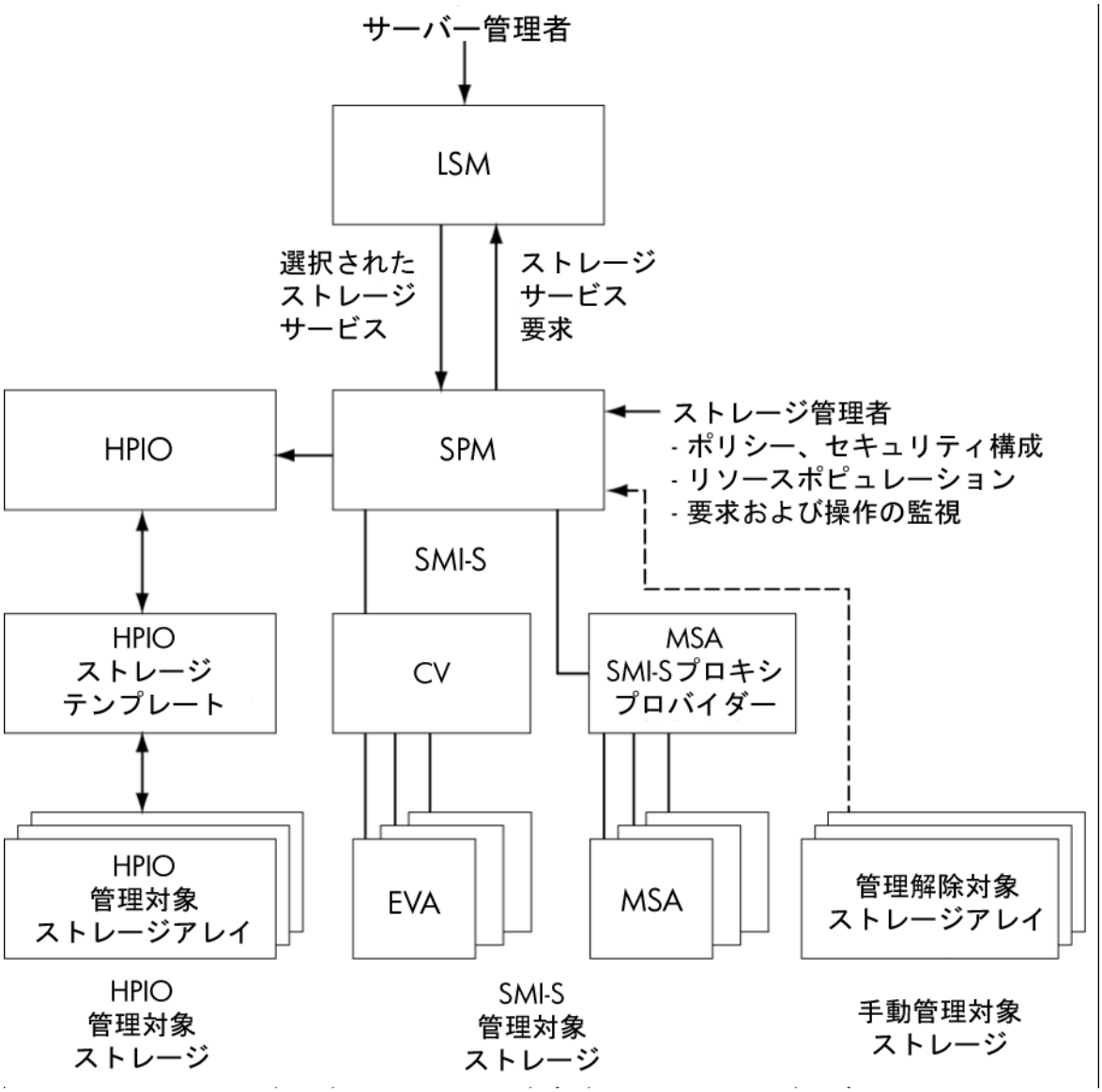
HP Insight Recovery ソフトウェアの詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics/docs の『HP Insight Recovery 6.0 User Guide』を参照してください。

HP Storage Provisioning Manager

HP Storage Provisioning Manager (SPM) は、ストレージに対する、サービスを中心とした管理インターフェイスを提供するソフトウェアツールです。ストレージカタログから利用できるストレージサービスでストレージに関する要求に応えられるようにします。ストレージ管理タスクを安全に自動化することもできます。

SPM は、Insight Dynamics の一部として自動的にインストールされ、Virtualization Manager の論理サーバー管理 (LSM) 機能からアクセスできます。SPM は、Command View (CV) を使用する EVA、Insight Operations Orchestration または SMI-S を使用して HP Insight Orchestration (HPIO) によって管理されるストレージアレイ、または管理されていないストレージアレイに接続する必要があります。図5-1は、SPM環境全体のアプリケーション、サーバー、およびアレイの関係を示しています。

図 5-1 SPM 環境



注記: SPM バージョン 1.0 では、MSA はサポートされていません。

SPM の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics/docs の『HP Storage Provisioning Manager User Guide』を参照してください。

Application Discovery

Application Discovery は、データセンターやコンピューティングネットワークで実行されているアプリケーションやプロセスを識別し把握するのに役立ちます。

Application Discovery では以下を実行できます。

- ネットワークやデータセンターで、認識され、実行され、インストールされている、アプリケーションの場所と数を検出できます。
- 実行中のプロセスやアプリケーションの動作とリソース使用率を監視します。
- 他社のアプリケーションやカスタムアプリケーションを検出しやすいように、アプリケーションテンプレートを定義して使用中の環境に合わせます。また、それらのテンプレートを監視対象のワークロードに追加できるようにします。
- 通知を受信する必要のあるイベントタイプを選択し、それらの重要度レベルを設定します。

Application Discovery の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『Application Discovery 6.0 Software: ユーザーガイド』を参照してください。

HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用)

Virtualization Manager から Global Workload Manager (gWLM) にアクセスするには、**[共有リソースドメイン]** タブを選択するか、灰色の Insight Dynamics メニューバーから**[ツール]→[Global Workload Manager]**の項目の 1 つを選択します。gWLM は、共有コンピューティング環境内のワークロードのパフォーマンスとリソース使用率の両方を改善します。gWLM では、nPartitions、仮想パーティション、仮想マシン、pset、または fss グループでパーティション構成されているサーバーに対して、以下のタスクを実行できます。

- 各アプリケーションの監視。
- 各アプリケーションに必要な CPU リソースの判断。
- 最も必要度が高いパーティションに CPU リソースを自動的に移行。この移行処理により、要求のピーク時にアプリケーションで使用可能なリソース量が増え、アプリケーションのパフォーマンスが改善されます。さらに、アイドル状態のリソースを実行中のアプリケーションに移行させることでプロセッサーの使用率も向上します。

gWLM の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『HP Insight Global Workload Manager 6.0 Software: ユーザーガイド』を参照してください。

HP Instant Capacity Manager

Instant Capacity (iCAP) Manager は、Instant Capacity 環境を監視するのに使用できる Web ベースのインターフェイスです。iCAP Manager では、使用できる Instant Capacity リソースの概要を説明したホームページ、グループマネージャーについての詳細を説明する Global Instant Capacity グループマネージャーのページ、および GiCAP グループ、iCAP コンプレックス、およびホストに関する詳細ページがあります。

以下のいずれかの方法で iCAP Manager にアクセスできます。

- Virtualization Manager の [ビジュアル化] タブで、iCAP コンポーネントや TiCAP キャパシティを有する管理対象システムに関連付けられた、あるいは GiCAP グループのメンバーとなっている管理対象システムに関連付けられた、iCAP テクノロジーリンクをクリックします。
- Insight Dynamics メニューバーから、**[ツール]→[Instant Capacity Manager]**を選択します。

iCAP Manager の詳細は、iCAP Manager ヘルプを参照してください。

Partition Manager

Partition Manager は、HP サーバーシステム上の nPartitions を構成および管理する便利なグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) をシステム管理者に提供します。Partition Manager を使用すると、コマンドとパラメーターを覚えなくても構成タスクを実行できます。グラフィック表示の中から nPartitions、セル、I/O シャーシ、または他のコンポーネントを選択し、次にメニューからアクションを選択します。

Partition Manager を使用すると、以下のタスクを実行できます。

- nPartitions の作成、修正、削除
- コンプレックスの nPartitions 構成の調査
- コンプレックスの構成およびハードウェアに関する潜在的な問題のチェック
- コンプレックス上のハードウェアリソースの管理

Partition Manager の詳細は、Partition Manager ヘルプを参照してください。

Integrity Virtual Machines Manager

HP Integrity Virtual Machines Manager (VM Manager) は、Integrity VM リソースを管理するためにブラウザーから使用できる GUI です。VM Manager では、仮想マシンを作成、構成、評価し、VM ホストレベルでデータおよびリソースを監視、評価することができます。VM ホストのすべての仮想マシンと割り当てられたリソースを表示でき、特定の仮想マシンまたは仮想スイッチに割り当てられたすべてのリソースを表示できます。たとえば、VM Manager は、ネットワークおよびストレージデバイスの仮想から物理への対応のグラフィカルビューが用意されているので、リソース使用率情報を含めた、I/O データを表示できます。VM Manager は、Integrity VM リソースについての情報を、VM ホスト上にインストールされている Web-Based Enterprise Management (WBEM) プロバイダーを介して入手します。

VM Manager 4.1 は、このリリースの Insight Dynamics - VSE for Integrity に含まれます。VM Manager 4.1 では、次のような新機能が提供されます。

- HP Integrity VM バージョン 4.1 のサポート (引き続きサポートされている旧バージョンの Integrity VM のサポートに追加)。
- 仮想マシンの移行 (オンラインおよびオフライン) の開始とそのステータスの監視のサポート。仮想マシンのオンライン移行により、稼働中の仮想マシンをサービスを中断することなくそのゲストオペレーティングシステム (OS) ならびにアプリケーションとともに別の VM ホストに移動できます。サービスはそのまま使用でき、OS のリブートやアプリケーションの再起動も不要です。
- HP Serviceguard の拡張サポート。VM Manager の特定のタブに、仮想マシンが HP Serviceguard パッケージとして参加しているかどうかが表示されます。また、カーソルを重ねると表示されるテキストには、アクティブに仮想マシン (Serviceguard ゲストパッケージ) を管理している VM ホストが表示されます。仮想マシンが Serviceguard パッケージとして構成されている場合、VM Manager では、Integrity VM マルチサーバー環境 (MSE) グループの名前が表示されます。複数の Integrity VM サーバーが Serviceguard クラスターとしても構成されている場合、このグループが必要です。Serviceguard パッケージとして構成されている仮想マシンは、Integrity VM MSE 内の別のノードに自動的にフェイルオーバーされます。
- 仮想マシンからのネットワークまたはストレージデバイスの削除のサポート。
- VM Manager は、HP Serviceguard パッケージとして構成されている仮想マシンを起動、再起動、停止、および削除できるようになりました。VM Manager は、仮想マシンが Serviceguard によって制御されているかどうかを検出する機能を使用したあと、適切な Serviceguard コマンドを実行してこれらの操作を行います。

VM Manager の詳細は、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals の『HP Integrity Virtual Machines Manager 4.1 Software: ユーザーガイド』を参照してください。

第6章　トラブルシューティング

この章では、Insight Dynamics の問題のトラブルシューティングに利用できるツールや手順についていくつか説明します。トラブルシューティングの詳細は、「マニュアルとホワイトペーパー」 (37 ページ) に記載されているユーザーガイドを参照してください。このリリースでの既知の問題および回避策は、『HP Insight Dynamics 6.0 リリースノート』を参照してください。

メモリおよびその他のシステム要件

CMS および**管理対象システム**が『HP Insight Software 6.0 サポートマトリックス』で指定されている要件を満たしていることを確認します。特に、メモリの推奨要件およびサポートされる最小要件に注意してください。このドキュメントは、http://www.hp.com/go/insightcontrol-manuals にあります。

ヒープ領域の超過に関するエラーメッセージが表示される場合は、HP SIM Java 仮想マシン (JVM) のヒープサイズを増やす必要がある場合があります。64 ビットシステムでは、ヒープサイズは HP SIM によって 4096MB (4GB) に設定されています。ヒープサイズを変更するには、`globalsettings.props` ファイル内の `JVMMAXHEAP` の値 (MB 単位) を設定します。HP-UX の場合、このファイルは `/etc/opt/mx/config/globalsettings.props` にあります。Windows の場合、このファイルは *`installation-directory`*`\config\globalsettings.props` にあります。デフォルトのインストールディレクトリは `C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment` ですが、インストール時にこのディレクトリを変更することもできます。

Insight Managed System Setup Wizard

Managed System Setup Wizard を使って、Insight Dynamics での使用に合わせて管理対象システムを設定することにより、多くの構成上の問題を回避することができます。このウィザードは、システムで使用する管理機能をサポートできるように、自動で必要なライセンスや**エージェント**ソフトウェアをインストールし、その他の構成を設定します。

Managed System Setup Wizard を起動するには、HP SIM トップメニューから**[設定]→[Managed System Setup Wizard...]**を選択します。ウィザードの各手順にヘルプが提供されています。

[診断] メニューアクション

[診断]→[Insight Dynamics のトラブルシュート]メニューでは、以下に説明する 3 つのタスクを行うことができます。これらのタスクは、`vseassist` コマンドを使用して構成のチェックを実行します。このようなチェックからの出力の例は、vseassist(1M) (46 ページ) を参照してください。

CMS 構成のチェック

このタスクは、CMS 上でさまざまな構成チェックを実行します。Insight Dynamics のトラブルシューティングを行う際は、まずこのタスクを実行してください。CMS の構成上の問題を解決すると、後述する「CMS と管理対象ノードの通信チェック」 (34 ページ) や「管理対象ノードの構成チェック」 (35 ページ) タスクを使って、特定の管理対象ノードの問題を診断することができます。

手順 6-1 CMS 構成のチェック

1. HP SIM メニューバーから**[診断]→[Insight Dynamics のトラブルシュート]→[CMS 構成のチェック...]**を選択します。
2. このタスクを定期的に、あるいは指定した時間に実行する場合は**スケジュール**をクリックしてください。[タスクのスケジュール] 画面が表示されます。スケジュールオプションの

ヘルプをこの画面から利用できます。タスクの実行後、HP SIM メニューバーから**[タスク & ログ]→[タスク結果の表示...]**を選択して結果を表示できます。

このタスクを直ちに実行する場合は**実行**をクリックしてください。CMS 上で `vseassist` コマンドが実行され、**[標準出力]** タブに結果が表示されます。

3. このタスクによって実行された各チェックに対して、以下のステータスインジケーターのいずれか 1 つが表示されます。

PASS	構成上の問題は検出されませんでした。
FAIL	深刻な構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics を正常に動作させるために問題を解決する必要があります。
WARN	構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics の正常な動作を妨げる問題ではありませんが、いくつかの機能の動作が制限を受ける可能性があります。
N/A	チェックはこのタイプのシステムに該当しません。

4. オプション: 出力のコピーを印刷する場合は、**印刷可能なレポートの表示**をクリックし、**[印刷]** をクリックしてください。

このタスクによって詳細情報がログファイルに書き込まれます (HP-UX CMS の場合は `/var/adm/syslog/vseassist.log`、Microsoft Windows システムの場合は *`installation-directory`*`\logs\vseassist.log`)。何らかの問題が検出された場合、詳細はログファイルを確認してください。

ヒント: このタスクによって実行された `vseassist` コマンド行は、この画面の出力ボックスの上に表示されます。また、印刷可能なレポートにも表示されます。この情報を使って、コマンド行から実行できる独自の診断スクリプトを作成することができます。

HP SIM メニューバーから**タスク & ログ→タスク結果の表示...**を選択して結果を再レビューできます。

CMS と管理対象ノードの通信チェック

このタスクでは、CMS と選択された管理対象システム間の通信がチェックされます。Insight Dynamics 構成のトラブルシューティングを行うときは、CMS の構成に未解決の問題がないことを確認するためにまず「CMS 構成のチェック」 (33 ページ) タスクを実行してください。その後、このタスクを使用して、問題のある管理対象システムの通信に関する問題を解決してください。このオプションでは、ライセンスの期限が切れている、オープンの WBEM ポートが存在しない、SSH 認証の構成が適切でない、などの問題が検出されます。これらのチェックは、CMS が管理機能を実行するために管理対象システムと通信できるかどうかを検証します。

手順 6-2 CMS と管理対象システムとの通信のチェック

1. オプション: 問題のある管理対象システムを選択します。Virtualization Manager の [ビジュアル化] ビューに表示される各システム名の隣にある選択ボックスをチェックしてシステムを選択します。システムを選択せずにこのタスクを開始することもできます。その場合、後述する次の手順後に、利用可能な HP SIM システム収集からシステムを選択するよう求められます。
2. HP SIM メニューバーから**[診断]→[Insight Dynamics のトラブルシュート]→[CMS と管理対象ノードの通信チェック]**を選択します。
3. オプション: まだシステムが選択されていなければ、利用可能な HP SIM システム収集から選択するよう求められます。すでにシステムを選択している場合、それらのシステムが『ターゲットの確認』画面に表示されます。HP SIM では、この画面でシステムを追加、あるいは削除するためのいくつかのオプションが用意されています。ヘルプは、HP SIM メニューバーから**[ヘルプ]→[HP Systems Insight Manager のヘルプ]**を選択し、「操作」トピックおよび「タスクによる管理」サブトピックを選択します。

4. このタスクを定期的に、あるいは指定した時間に実行する場合は**スケジュール**をクリックしてください。[タスクのスケジュール] 画面が表示されます。スケジュールオプションのヘルプをこの画面から利用できます。タスクの実行後、HP SIM メニューバーから**[タスク & ログ]→[タスク結果の表示...]**を選択して結果を表示できます。

   このタスクを直ちに実行する場合は**実行**をクリックしてください。CMS 上で `vseassist` コマンドが実行され、**[標準出力]** タブに結果が表示されます。

5. このタスクによって実行された各チェックに対して、以下のステータスインジケーターのいずれか 1 つが表示されます。

PASS	構成上の問題は検出されませんでした。
FAIL	深刻な構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics を正常に動作させるために問題を解決する必要があります。
WARN	構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics の正常な動作を妨げる問題ではありませんが、いくつかの機能の動作が制限を受ける可能性があります。
N/A	チェックはこのタイプのシステムに該当しません。

6. オプション: 出力のコピーを印刷する場合は、**印刷可能なレポートの表示**をクリックし、**[印刷]** をクリックしてください。

このタスクによって詳細情報がログファイルに書き込まれます (HP-UX システムの場合は `/var/adm/syslog/vseassist.log`、Microsoft Windows システムの場合は *`installation-directory`*`\logs\vseassist.log`)。何らかの問題が検出された場合、詳細はログファイルを確認してください。

ヒント: このタスクによって実行された `vseassist` コマンド行は、この画面の出力ボックスの上に表示されます。また、印刷可能なレポートにも表示されます。この情報を使って、コマンド行から実行できる独自の診断スクリプトを作成することができます。

HP SIM メニューバーから**タスク & ログ→タスク結果の表示...**を選択して結果を再レビューできます。

管理対象ノードの構成チェック

このタスクは、`mxexec` を使って、選択した管理対象システムに `vseassist` コマンドをコピーし、そこでそのコマンドをリモートに実行することによって、HP-UX、Microsoft Windows、または Linux 管理対象システムの構成をチェックします。Insight Dynamics 構成のトラブルシューティングを行うときは、CMS の構成に未解決の問題がないことを確認するためにまず「CMS 構成のチェック」 (33 ページ) タスクを実行してください。その後、「CMS と管理対象ノードの通信チェック」 (34 ページ) タスクを使用して、問題のある管理対象システムの通信に関する問題を解決してください。通信の問題を解決すると、このタスクを使って、問題が発生している管理対象システムの構成上の問題を診断することができます。

手順 6-3 管理対象システムの構成のチェック

1. オプション: 問題のある管理対象システムを選択します。Virtualization Manager の [ビジュアル化] ビューに表示される各システム名の隣にある選択ボックスをチェックしてシステムを選択します。システムを選択せずにこのタスクを開始することもできます。その場合、後述する次の手順後に、利用可能な HP SIM システム収集からシステムを選択するよう求められます。
2. HP SIM メニューバーから**[診断]→[Insight Dynamics のトラブルシュート]→[管理対象ノードの構成チェック]**を選択します。
3. オプション: まだシステムが選択されていなければ、利用可能な HP SIM システム収集から選択するよう求められます。すでにシステムを選択している場合、それらのシステムが『ターゲットの確認』画面に表示されます。HP SIM では、この画面でシステムを追加、あるいは削除するためのいくつかのオプションが用意されています。ヘルプは、HP SIM

メニューバーから**[ヘルプ]→[HP Systems Insight Manager のヘルプ]**を選択し、『タスクによる管理』トピックを選択します。

4. このタスクを定期的に、あるいは指定した時間に実行する場合は**スケジュール**をクリックしてください。[タスクのスケジュール] 画面が表示されます。スケジュールオプションのヘルプをこの画面から利用できます。タスクの実行後、HP SIM メニューバーから**[タスク & ログ]→[タスク結果の表示...]**を選択して結果を表示できます。

   このタスクを直ちに実行する場合は**実行**をクリックしてください。CMS 上で `vseassist` コマンドが実行され、**[標準出力]** タブに結果が表示されます。

5. このタスクによって実行された各チェックに対して、以下のステータスインジケーターのいずれか 1 つが表示されます。

PASS	構成上の問題は検出されませんでした。
FAIL	深刻な構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics を正常に動作させるために問題を解決する必要があります。
WARN	構成上の問題が検出されました。Insight Dynamics の正常な動作を妨げる問題ではありませんが、いくつかの機能の動作が制限を受ける可能性があります。
N/A	チェックはこのタイプのシステムに該当しません。

6. オプション: 出力のコピーを印刷する場合は、**印刷可能なレポートの表示**をクリックし、**[印刷]** をクリックしてください。

このタスクによって詳細情報がログファイルに書き込まれます (HP-UX システムの場合は `/var/adm/syslog/vseassist.log`、Microsoft Windows システムの場合は *`installation-directory`*`\logs\vseassist.log`)。何らかの問題が検出された場合、詳細はログファイルを確認してください。

ヒント: このタスクによって実行された `vseassist` コマンド行は、この画面の出力ボックスの上に表示されます。また、印刷可能なレポートにも表示されます。この情報を使って、コマンド行から実行できる独自の診断スクリプトを作成することができます。

HP SIM メニューバーから**タスク & ログ→タスク結果の表示...**を選択して結果を再レビューできます。

vseassist コマンド

`vseassist` コマンドは、前に説明した [診断] メニューアクションを実装していますが、CMS 上のコマンド行から直接実行することもできます。管理対象システムの 1 つで通信の問題を解決できない場合は、このコマンドを管理対象システムにインストールまたはコピーし、そこのコマンド行から実行することもできます。

コマンド行オプション、推奨される診断手順、および例の詳細は、vseassist(1M) (46 ページ)を参照してください。HP-UX CMS では、コマンド行で `man` コマンドを使用するとこのリファレンスページを表示できます。

第7章　サポートおよび他のリソース

当社への連絡

製品機能に関するご意見やご提案は、Insight Dynamics の今後の開発に役立ちます。製品の開発チームに直接フィードバックを送る際は **vse@hpuxweb.fc.hp.com** (英語) を使用してください。

Insight Dynamics のドキュメントに関するご意見やご提案は、**docsfeedback@hp.com** (英語) にお寄せください。

これらの E メールアドレスで、製品サポートを提供することはできません。製品サポートについては、HP サポート担当者、HP サービス担当者、または HP 認定販売代理店までお問い合わせください。サポートサービスの詳細は、http://www.hp.com/jp/support を参照してください。

また、http://welcome.hp.com/country/jp/ja/contact_us.html からお問い合わせいただくこともできます。

関連情報

Insight Dynamics に含まれるオープンソースの製品に関する情報 (ライセンスの制約事項、更新、セキュリティの情報など) については、Insight Dynamics に付属するエンドユーザーライセンス契約を確認してください。このドキュメントは、CMS の次の場所にインストールされます。

HP-UX CMS	`/opt/vse/src/README`
Microsoft Windows CMS	*`installation-directory`*`\src\README` デフォルトのインストールディレクトリは `C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment` ですが、インストール時にこのディレクトリを変更することもできます。

マニュアルとホワイトペーパー

Insight Dynamics および関連製品のマニュアルならびにホワイトペーパーの最新バージョンは、HP の Web サイトからダウンロードできます。以下に記載しているマニュアルおよびホワイトペーパーは、すべて Insight Dynamics Information Library (http://www.hp.com/go/insightdynamics/docs) にあります。この情報ライブラリには、英語版のマニュアルへのリンクが含まれています。他の言語のマニュアルについては、http://www.hp.com/go/insightdynamics-manuals または http://www.hp.com/go/insightcontrol-manuals で、製品の選択をした後、利用できる言語のものから選択してください。

以下の表には、このサイトから利用できるマニュアルとホワイトペーパーを示します。いくつかのドキュメントは、複数の表に表示されています。

インストールと構成: Microsoft Windows CMS

トピック	ドキュメント
要件、機能サポート、互換性	• 『HP Insight Software 6.0 サポートマトリックス』 • 『HP Operations Orchestration Software System Requirements』
リリースノート	• 『HP Insight Dynamics 6.0 リリースノート』 • 『HP Insight Control 6.0 リリースノート』 • 『Virtual Connect Enterprise Manager リリースノート』
インストールと構成	• 『HP Insight Software 6.0 インストール/コンフィギュレーションガイド』 • 『HP Insight Software 6.0 プリインストールワークシート』 • 『HP Insight Software 6.0 クイックインストールガイド』 • 『HP Operations Orchestration Software Installation Guide』

インストールと構成: HP-UX CMS

トピック	ドキュメント
要件、機能サポート、互換性	• 『HP Insight Software 6.0 サポートマトリックス』
リリースノート	• 『HP Insight Dynamics 6.0 リリースノート』
インストールと構成	• 『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』

Insight Dynamics の使用

トピック	ドキュメント
お使いになる前に	• 『HP Insight Dynamics 6.0 スタートガイド』 • 『HP Insight Software 6.0 お使いになる前に』 • 『Insight Managed System Setup Wizard 6.0 スタートガイド』 • 『HP Operations Orchestration Software Concepts Guide』
ユーザーガイドおよび管理者ガイド	• 『HP Insight Virtualization Manager 6.0 Software With Logical Server Management: ユーザーガイド』 • 『HP Insight Capacity Advisor 6.0 Software: ユーザーガイド』 • 『Application Discovery 6.0 Software: ユーザーガイド』 • 『HP Insight Global Workload Manager 6.0 Software: ユーザーガイド』 • 『HP Integrity Virtual Machines Manager 4.1 Software: ユーザーガイド』 • 『HP Insight Control 6.0 User Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Server Migration User Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Virtual Machine Management User Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Performance Management User Guide』 • 『HP Storage Provisioning Manager User Guide』 • 『HP Insight Recovery 6.0 User Guide』 • 『HP Insight Orchestration 6.0 User Guide』 • 『HP Operations Orchestration Software Central User Guide』 • 『HP Operations Orchestration Software Studio Guide to Authoring Flows』 • 『HP Operations Orchestration Software Administrator Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Power Management User Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Remote Management User Guide』 • 『HP Insight Control 6.0 Server Deployment User Guide』 • 『Virtual Connect Enterprise Manager User Guide 』
ホワイトペーパー これ以外のホワイトペーパーもあります。これ以外のホワイトペーパーについては、Insight Dynamics Information Library を参照してください。	• 『Backing up and restoring HP Insight Software v6.00 Central Management System (Windows)』 • 『HP Insight Recovery Technical White Paper 』 • 『HP Insight Orchestration Software White Paper: Enabling automated IT infrastructure provisioning and repurposing 』 • 『Insight Dynamics – VSE without OpenSSH on HP ProLiant and Integrity Servers Running Microsoft Windows』 • 『HP Logical Server Management Best Practices』 • 『Using Logical Servers』 • 『Defining Storage for Logical Servers』 • 『Upgrading Logical Servers to HP Insight Dynamics 6.0』 • 『Capacity Advisor: Importing OVPA Data from Non-VSE Nodes』

Web サイト

情報と解決策

Reference Architectures for Application Deployment in Virtualized Environments	http://www.hp.com/go/idvsera
HP Business Support Center	http://www.hp.com/go/bizsupport
Large Enterprise Business	http://www.hp.com/go/enterprise
Enterprise Library	http://www.hp.com/go/enterpriselibrary

製品

HP Insight Dynamics スイート	http://www.hp.com/jp/insightdynamics

HP Insight Dynamics suite for ProLiant	http://www.hp.com/go/insightdynamics/proliant
HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity	http://www.hp.com/go/insightdynamics/integrity
HP Insight Dynamics suite information library	http://www.hp.com/go/insightdynamics/docs
HP Insight ソフトウェア	http://www.hp.com/jp/insight
HP Insight Control スイート	http://www.hp.com/jp/insightcontrol
HP Insight Orchestration ソフトウェア	http://www.hp.com/go/insightorchestration
HP Insight Recovery ソフトウェア	http://www.hp.com/go/insightrecovery
HP Insight Control server migration	http://www.hp.com/go/migrate
HP Insight Control virtual machine management	http://www.hp.com/go/vmmanage
HP Virtual Connect Enterprise Manager ソフトウェア	http://www.hp.com/jp/vcem
HP Systems Insight Manager ソフトウェア	http://www.hp.com/jp/hpsim
HP BladeSystem Matrix	http://www.hp.com/jp/matrix
HP VSE Managed Node Software Update	http://vsemgmt.external.hp.com

コマンドリファレンス (マンページ)

Insight Dynamics および関連製品は、HP-UX および Linux システム用のマンページならびに Microsoft Windows システム用のコマンドリファレンスページを含んでいます。これらのページでは、コマンド、ファイル形式、および関連情報を詳しく説明しています。このドキュメントに含まれるコマンドリファレンスページについては、「コマンドリファレンス」(45ページ)を参照してください。次の表は、Insight Dynamics に関連するその他のリファレンスページの一覧です。

CMS にインストールされているリファレンスページ

リファレンスページ	説明
capagentlesscfg(1M)	Capacity Advisor エージェントレスデータ収集の詳細なオプションの設定、およびエージェントレスデータ収集用に構成されたシステムの一覧表示
capcustombenchmark(1M)	収集データの正規化のために Capacity Advisor のベンチマーク CPU スケーリングを設定
capcustombenchmark(4)	Capacity Advisor のカスタムベンチマークデータベースファイルのフォーマット
capcollect(1M)	システムからの Capacity Advisor データの収集
capovpaextract(1M)	管理対象システムからの HP Performance Agent (以前の HP OpenView Performance Agent (OVPA)) システムデータのエクスポート、および Capacity Advisor へのインポート
cappmpextract	HP Performance Management Pack (PMP) システムのデータの、特定の管理対象システムからのエクスポート、および Capacity Advisor へのインポート (Windows CMS のみ)
capprofile(1M)	ワークロードやシステムの Capacity Advisor データのインポート、エクスポート、表示、無効化、および削除
capprofile(4)	Capacity Advisor のインポートファイルとエクスポートファイルのフォーマット
gwlm(1M)	Global Workload Manager
gwlm(5)	Global Workload Manager の概要
gwlmcmsd(1M)	Global Workload Manager (gWLM) デーモン

リファレンスページ	説明
gwlmreport(1M)	ワークロードリソース使用率に関する高度なテキストサマリーレポートの作成
gwlmsslconfig(1M) gwlmimportkey(1M) gwlmexportkey(1M)	Global Workload Manager のネットワーク通信の保護
msswinitconfig(1M)	Managed System Setup Wizard の構成または構成解除
gwlmxml(4)	Global Workload Manager の XML ファイル構造の概要
vseassist(1M) (46 ページ)	Insight Dynamics の構成に関する問題の解決支援
vseinitconfig(1M) (51 ページ)	Insight Dynamics ソフトウェアの構成または構成解除
vselicense(1M) (59 ページ)	HP Integrity システムおよび HP 9000 システムにおける使用権 (LTU) の管理

管理対象システムにエージェントソフトウェアとともにインストールされるリファレンスページ

リファレンスページ	説明
agent_config(1M)	管理対象ノードからの Application Discovery 証明書の制御
amgrd(1M)	Application Discovery エージェントの動作制御あるいは変更
gwlmagent(1M)	Global Workload Manager (gWLM) エージェント
gwlmplace(1M)	gWLM ワークロードへのプロセスの配置
gwlmsend(1M)	カスタムポリシーで使用する測定データの gWLM への送信
gwlmsslconfig(1M) gwlmimportkey(1M) gwlmexportkey(1M)	Global Workload Manager のネットワーク通信の保護
gwlmstatus(1M)	管理対象ノードのエージェント、SRD、およびライセンスマネージャーのステータス表示
utild(1M)	(HP-UX) システム使用率データ収集デーモン
utild(8)	(Linux) システム使用率データ収集デーモン

セルベースのコンプレックスにインストールされるリファレンスページ

リファレンスページ	説明
parmgr(1M)	Partition Manager の起動

HP Integrity Virtual Machines を実行するシステムにインストールされるリファレンスページ

リファレンスページ	説明
hpvm(5)	HP Integrity Virtual Machines の説明
hpvmclone(1M)	Integrity 仮想マシンのクローンコピーの作成
hpvmcollect(1M)	ゲストや Integrity VM ホスト上のクラッシュダンプ、ログ、システムステータス、および構成の収集
hpvmconsole(1M)	Integrity 仮想マシンのコンソールへの接続
hpvmcreate(1M)	新しい Integrity 仮想マシンの作成
hpvmdevmgmt(1M)	Integrity VM デバイスデータベースの管理

リファレンスページ	説明
hpvminfo(1M)	Integrity VM 環境に関する情報の表示
hpvmmodify(1M)	Integrity 仮想マシンの属性の名称変更あるいは変更
hpvmmigrate(1M)	仮想マシンの他の Integrity VM ホストシステムへの移動
hpvmnet(1M)	仮想ネットワークデバイスの構成
hpvmremove(1M)	Integrity 仮想マシンの削除
hpvmstart(1M)	Integrity 仮想マシンの起動
hpvmstatus(1M)	1 つ以上の Integrity 仮想マシンのステータス表示
hpvmstop(1M)	Integrity 仮想マシンの停止

選択される HP Systems Insight Manager ソフトウェアのリファレンスページ

リファレンスページ	説明
mxagentconfig(1M)	CMS と動作するためのエージェント構成
mxauth(1M)	Systems Insight Manager から認証の追加、削除、あるいは表示
mxglobalsettings(1M)	Systems Insight Manager のグローバル設定の管理
mxinitconfig(1M)	サーバーの初期構成の実行
mxnode(1M)	Systems Insight Manager からノードの追加、変更、識別、削除、あるいは表示
mxstart(1M)	Systems Insight Manager と TomCat Web サーバーの起動
mxstatus(1M)	Systems Insight Manager の準備完了/準備未完了の最新状態の表示または返却 (終了コードによる)
mxstop(1M)	Systems Insight Manager と TomCat Web サーバーの停止
mxuser(1M)	Systems Insight Manager からユーザーの追加、修正、削除、あるいは表示

表記規約

本書では、次の表記規約を使用します。

『マニュアル名』	マニュアルやその他のドキュメントのタイトルです。
『リンク付きマニュアル名』	ハイパーリンク付きのマニュアルやその他のドキュメントのタイトルです。
http://www.hp.com	Web サイトのアドレスです。
`Command`	コマンド名または修飾子付きコマンド名です。
`user input`	ユーザーが入力するコマンドなどのテキスト文字列です
`computer output`	コンピュータで表示されるテキスト文字列です。
Enter	キーボード上のキーです。**Return** と **Enter** は同じキーを指しているので注意してください。**Ctrl+A** などのコンビネーションキーは、**Ctrl** キーを押しながら **A** キーを押すことを示します。
用語	用語集で定義されている用語です。
`variable`	PATH、errno などの環境変数の名前です。
`value`	コマンドや関数、情報内で、とりうる値の 1 つに置き換えられることを示す変数の名前です。

`find`(1)	HP-UXのマンページです。この例では、「find」はマンページ名で、「1」はマンページのセクションです。

コマンドリファレンス

vseassist(1M)

名称

vseassist - Insight Dynamics の構成に関する問題の解決支援

構文

パス (HP-UX): `/opt/vse/bin/vseassist`

パス (Windows): *install-path*`\bin\vseassist.exe`

```
vseassist -a [ -q ] [ -n nodename | -g collectionname ]...
vseassist -c [ -q ]
vseassist { -l | -r } [ -q ] { -n nodename | -g collectionname }...
vseassist -s [ -q ] -h cms
```

説明

vseassist コマンドは、HP Insight Dynamics の構成に関する問題を特定するためのさまざまなチェックを実行します。このコマンドは、HP SIM Central Management Server (CMS) でのソフトウェア構成、CMSと管理対象システムとの通信、および管理対象システムでのソフトウェアの構成を検査します。結果の概要が表示され、詳細は問題の解決策とともにログファイルに書き込まれます。

vseassistは、HP SIMのグラフィカルユーザーインターフェイス、CMSのコマンドライン、または管理対象システムのコマンドラインから、実行できます。以下の診断手順をお勧めします。

1. CMS への Administrator (`root`) アクセス権を持っている場合は、以下のコマンドをコマンド行から実行します。

   ```
   vseassist -a
   ```

   このコマンドは、CMSの構成、**すべての**VSE**リソース**収集にあるすべてのシステムとの通信、およびそれらのシステムの構成をチェックします。出力の概要を確認し、問題があればログファイルを調べます。ログファイルの解決手順に従い、見つかった問題を解決します。

   まず、CMS の構成に関する問題を解決します。これらの問題が解決したことを確かめるには、以下のコマンドを CMS のコマンドラインから実行します。

   ```
   vseassist -c
   ```

   このコマンドは HP SIM のユーザーインターフェイスから直接実行することもできます。**診断**メニューの`Insight Dynamics`**のトラブルシュート**を選択し、`CMS`**構成のチェック**を選択します。

2. CMS の構成に関する問題をすべて解決したら、管理対象システムとの通信に関する問題がないか検査します。CMS のコマンド行から以下のコマンドを使用して、管理対象システムの HP SIM ノード名またはシステム収集名を指定します。

   ```
   vseassist -l { -n nodename | -g collectionname ...}
   ```

   または、HP SIM のユーザーインターフェイスから、管理対象システムを選択し、**診断**メニューの`Insight Dynamics`**のトラブルシュート**を選択して、`CMS`**と管理対象ノードの通信チェック**を選択します。

3. CMS と管理対象システムとの通信に関する問題をすべて解決したら、それらのシステムの構成をチェックします。CMS のコマンド行から以下のコマンドを使用して、管理対象システムの HP SIM ノード名またはシステム収集名を指定します。

   ```
   vseassist -r { -n nodename | -g collectionname ...}
   ```

   または、HP SIM のユーザーインターフェイスから、管理対象システムを選択し、**診断**メニューの`Insight Dynamics`**のトラブルシュート**を選択して、**管理対象ノードの通信チェック**を選択します。

4. いずれかの管理対象システムに関する問題を解決できない場合は、vseassistをその管理対象システムにインストールまたはコピーし、コマンドラインから実行できます。以下のコマンドで、*cms* を CMS の完全修飾ドメイン名に置き換えます。

   ```
   vseassist -s -h cms
   ```

オプション

オプションを何も指定しない場合は、コマンドの構文が表示され、戻りコード 3 でコマンドが終了します。

vseassist コマンドは、以下のオプションを認識します。各オプションについて、オプション文字を覚えるのに便利なニーモニックをかっこ内に示しています。

`-a`

(All) 以下のすべての検査を実行します。

1. CMS の構成をチェックします (`-c` オプションと同じ)。
2. CMS と、指定した管理対象システムとの通信を検査します (`-l` オプションと同じ)。管理対象システムを指定しない場合は、`All VSE Resources` コレクション内のすべてのシステムでこの検査を実行します。
3. 指定した管理対象システムの構成をチェックします (`-r` オプションと同じ)。管理対象システムを指定しない場合は、**すべての**`VSE`**リソース**収集内の該当するシステムすべてでこのチェックを実行します。

`-c`

(CMS) CMS の構成をチェックします。

注記: Windows CMS の場合、IOAssist がインストールされていると、追加の IOAssist リソースおよび CMS 構成に関するチェックが実行されます。

`-l`

(Link)CMS から、CMS と、`-n` オプションおよび `-g` オプションで指定した管理対象システムとの間の通信を検査します。このオプションでは、ライセンスの期限が切れている、オープンの WBEM ポートが存在しない、SSH 認証の構成が適切でない、などの問題が検出されます。これらのチェックは、管理機能を実行するために CMS が管理対象システムと通信できるかどうかを検証します。

このオプションには 1 つ以上の `-n` オプションまたは `-g` オプションが必要です。

注記: Windows CMS および HP-UX CMS の場合、vseassist は、管理対象ノードの通信を試みるポートを `globalsettings.props` から取得します (以下の「ファイル」の項を参照)。ポートの構成が存在しない場合、ポート 22 が使用されます。

`-r`

(Remote) CMS から、`-n` オプションおよび `-g` オプションで指定した HP-UX あるいは Windows 管理対象システムの構成をチェックします (`vseassist` で、Linux 管理対象システムの構成チェックを行うことはできません)。このオプションは、mxexec を使用して vseassist コマンドを管理対象システムにコピーし、そこで `-s` オプション付きで実行します。

`-r` オプションを正常に実行するためには、CMS が管理対象システムと通信できる必要があります (この検査は `-l` オプションで行います)。

このオプションには 1 つ以上の -n オプションまたは -g オプションが必要です。

-n *nodename*

(Node) VSE 管理対象システムの名前を指定します。システムが CMS に認識されるためのノード名を使用します (このノード名はmxnode(1M)で確認できます)。複数の -n オプションおよび -g オプションを使用して、複数のシステムを指定できます。

注記: このコマンドは、**すべての**VSE**リソース**に含まれるシステムの問題を診断するだけのために提供されています。-n オプションまたは -g オプションを使用してコマンドを他のリソースに適用しても、有益な結果は得られません。

-g *collectionname*

(Group) CMS に認識されるシステムのコレクションの名前を指定します。指定した検査が、コレクション内の各管理対象システムについて実行されます。複数の -n オプションおよび -g オプションを使用して、複数のシステムを指定できます。

注記: スペースを含むシステム名またはコレクション名は、引用符で囲む必要があります。

HP SIM 配下の収集については、mxquery(1M)を参照してください。

-q

(Quiet) stdout または stderr に出力しません。検査結果は引き続き vseassist.log ファイルに記録されます。

-s

(System) このオプションは、vseassist を HP-UX あるいは Windows 管理対象システムで直接実行する場合に使用します (vseassist で、Linux 管理対象システムの構成チェックを行うことはできません)。このオプションでは、WBEM プロバイダーが存在しない、WBEM プロセスが停止している、必要なパッチが存在しない、などの問題が検出されます。HP-UX 管理対象システムでは、wbemassist バージョン 1.1 以降がインストールされている場合、WBEM サービスのチェックが wbemassist によって行われます。インストールされていなければ、vseassist は、自身の組み込み WBEM チェックを実行します。

注記: wbemassist は HP-UX WBEMServices の問題をチェックし、解決策を提示します。WBEM Providers、あるいは CIM サーバーを使用している他のサービスについてのチェックは実行されません。詳細は wbemassist(1M)を参照してください。

CMS で -r オプションを指定して vseassist を使用すると、mxexec によって、管理対象システムで -s オプション付きの vseassist がリモートで実行されます。

-h *cms*

(Host) システムを管理している CMS の完全修飾ドメイン名を指定します。CMS で -r オプションを使用すると、リモートで実行される vseassist にこのオプションが渡されます。

インストール

vseassist コマンドは、Insight Dynamics がインストールされるときに、CMS にインストールされます。

戻り値

0　コマンドは正常に終了し、失敗の結果は検出されませんでした。

1　コマンドは正常に終了し、失敗の結果がいくつか検出されました。

2　警告が検出されましたが、失敗の結果は検出されませんでした。

3　指定したオプションが正しくありませんでした。コマンドの構文が表示されます。

4　予期しない内部エラーが発生しました。HPサポート担当者、HPサービス担当者、またはHP 認定販売代理店までお問い合わせください。

例

実行される具体的なチェックは、CMS および管理対象システムのオペレーティングシステムやシステムタイプによって異なります。以下の例では、作成される出力を示します。ただし、詳細はお使いの環境と異なることがあります。

unixsys という名前の CMS の構成をチェックします。

```
# vseassist -c
Version: A.6.0.0.*

+-----------------------------------------------------------------------------------------------+
|                  Performing CMS configuration verification                                    |
+-----------------------------------------------------------------------------------------------+

  unixsys:
    HP SIM running.....................................................................[PASS]
    HP SIM memory configuration........................................................[PASS]
    HP Insight Dynamics - VSE suite running............................................[PASS]
    Localhost name resolution..........................................................[PASS]
    ID-VSE manageable systems discovered in HP SIM.....................................[PASS]
    Application Discovery server running...............................................[PASS]
    File system free space.............................................................[PASS]
    Java JRE installed.................................................................[PASS]
    Virtual Machine Management runnning................................................[PASS]
    VMM responsive.....................................................................[WARN]
      WARNING:    HP SIM has discovered one or more virtual machine hosts
                  servers, but the VMM plugin is not fully configured to
                  manage the following servers: palacio .
      RESOLUTION: - Verify if the HP Management Agents are installed (for
                  SNMP and proper HP SIM discovery);

                  - Verify if VMM agent has been installed; It's possible to
                  install that via the "Deploy -> Deploy Drivers,
                  Firmwares and Agents -> Install VMM Agent" menu;

                  - Verify if the system is licensed for VMM;

                  - Verify if the system is registered for VMM, if not
                  register the VM host via the "Configure -> Virtual
                  Machine Host Registration" menu or register the VM via
                  the native virtualization console and Identify the
                  system using "Options->Identify Systems" menu.
    Virtual Connect Enterprise Manager responsive......................................[PASS]
    Logical Server Automation installed................................................[PASS]

    Running Insight Orchestration (HP IO) Checks.......................................[PASS]

Result Summary:
  13 verification check(s) performed on 1 system(s)
  12 check(s) passed
  0 check(s) failed
  1 check(s) warned
  0 check(s) not applicable

See log for details: C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment\logs\vseassist.log
```

CMS から管理対象システムsystem への通信を検査します。

```
# vseassist -l -n system
Version: A.6.0.0.*

Version: 6.0.0.01
+-----------------------------------------------------------------------------------------------+
|        Performing link verification of managed system(s) from the CMS                         |
+-----------------------------------------------------------------------------------------------+

  system:
    Managed system hostname resolution.................................................[PASS]
    WBEM port open.....................................................................[PASS]
    WBEM authentication................................................................[PASS]
```

```
    SSH port open.....................................................................[PASS]
    SSH authentication................................................................[PASS]
    SNMP port open....................................................................[PASS]
    Trial or permanent license applied................................................[PASS]
    VMM accessibility.................................................................[N/A ]
    Capacity Advisor data collection..................................................[PASS]
    Check VMware ESX version..........................................................[N/A ]

Result Summary:
  8 verification check(s) performed on 1 system(s)
  8 check(s) passed
  0 check(s) failed
  0 check(s) warned
  2 check(s) not applicable

See log for details: C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment\logs\vseassist.log
```

著者

vseassist は HP で開発されました。

リリースバージョン

Insight Dynamics バージョン 6.0

メッセージ

64 ビットの Windows 管理対象システムで管理対象システムの構成チェックを実行しているときに、以下のメッセージが表示されることがあります。

```
'chcp' is not recognized as an internal or external command,
operable program or batch file.
```

これは、HP SIM のリモートコマンド実行機能に関する問題です。メッセージを無視して問題ありません。

ファイル

通信ポート設定などの構成設定は、以下のファイルから読み込まれます。

HP-UX: `/etc/opt/mx/config/globalsettings.props`

Windows: *`install-path`*`\config\globalsettings.props`

vseassistによって実行された検査結果の詳細はログファイルに書き込まれます。ログファイルに書き込まれた推奨手順に従い、検出された問題を解決します。

注記: ログファイルは自動的には除去されません。

HP-UX: `/var/adm/syslog/vseassist.log`

Windows: *`install-path`*`\logs\vseassist.log`

Linux: `/var/log/vseassist.log`

Windows CMS 上のデフォルトの *`install-path`* は `C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment` ですが、このディレクトリはインストール時に変更されている可能性があります。

参照

Insight Dynamics ヘルプ

Insight Dynamics Information Library (http://www.hp.com/go/insightdynamics/docs)

`capcollect`(1M), `mxexec`(1M), `mxnode`(1M), `mxquery`(1M), `vseinitconfig`(1M), `vselicense`(1M), `wbemassist`(1M)

vseinitconfig(1M)

名称

vseinitconfig - Insight Dynamics の構成または構成解除

構文

パス (HP-UX): `/opt/vse/bin/vseinitconfig`

パス (Windows): *`install-path`*`\bin\vseinitconfig`

`vseinitconfig [ -a | --initconfig ] [ -F | --clobber ] [ -q | --quiet ]`
`[ -x restart_sim= { true | false } ]`
(ソフトウェアの初期構成)

`vseinitconfig { -r | --unconfig } [ -F | --clobber ] [ -q | --quiet ]`
`[ -x restart_sim= { true | false } ]`
(ソフトウェアの削除のための構成解除)

`vseinitconfig { -b | --backup } { -d` *`path`* `| --dir=`*`path`* `}`
(HP-UX CMS 上の PostgreSQL データベースのバックアップ)

`vseinitconfig { -s | --restore } { -d` *`path`* `| --dir=`*`path`* `} { -F | --clobber }`
(HP-UX CMS 上の PostgreSQL データベースのリストア)

説明

`vseinitconfig` コマンドは、HP Systems Insight Manager (SIM) の中央管理サーバー (CMS) 上の Insight Dynamics の初期構成を実行します。また、既存の構成の削除と、Insight Dynamics データベースのバックアップまたは復元にも使用できます。(バックアップおよびリストア機能は、PostgreSQL データベースを使用している HP-UX が稼働する CMS 上でのみ使用できます。) `vseinitconfig` コマンドは、Insight Dynamics とともに HP-UX CMS および Microsoft® Windows® CMS にインストールされます。

このコマンドは、上の一覧で示す 4 種類の構文オプションに対応する 4 つの機能を CMS 上で実行します。オプションを指定しない場合は、初期構成機能が実行されます。

1. CMS 上に Insight Dynamics をインストールまたはアップデートした後の初期構成。これには、HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア、HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM)、および HP Insight Capacity Advisor ソフトウェアの初期構成と、Insight Dynamics データベースの初期化が含まれます。
2. Insight Dynamics の削除の準備として、HP SIM からのメニュー項目とアクションの削除、および Insight Dynamics データベースのクリア。
3. データの損失を防ぐための、Insight Dynamics データベースの安全なバックアップ (PostgreSQL データベースを使用している HP-UX を実行する CMS 上のみ)。
4. 以前のバックアップからの Insight Dynamics データベースの安全なリストア (PostgreSQL データベースを使用している HP-UX を実行する CMS 上のみ)。

オプション

`vseinitconfig` コマンドは、以下のオプションを認識します。それぞれのオプションは、長い形式と短い形式で表現できます。

オプションを指定しない場合は、初期構成機能が実行されます。

`-a| --initconfig`

Insight Dynamics の初期構成を実行します (これはオプションを指定しない場合にデフォルトで実行される機能でもあります)。このアクションには、HP SIM が動作中であり、HP SIM が `mxinitconfig` コマンドで構成されている必要があります。このコマンドは、HP SIM に Insight Dynamics ツール、ツールボックス、およびアクショ

ンを登録し、Insight Dynamics データベースを初期化します。

Microsoft Windows CMS の場合、**`vseinitconfig -a`** はインストーラーによって自動的に起動されます。HP-UX CMS の場合は、ソフトウェアのインストール後にコマンドを実行する必要があります (『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』を参照)。

HP-UX CMS 上で、省略可能な `--clobber` または `-F` オプションを指定すると、既存の Insight Dynamics データベースが削除されます。削除前にバックアップは作成されません。このオプションを使用しない場合、既存のデータベースは Insight Dynamics の旧バージョンからアップグレードされます。Microsoft Windows CMS には該当しません。

注記: 前のバージョンの Insight Dynamics からアップグレードする前に CMS 構成全体をバックアップすることをお勧めします。この詳細およびその他のアップグレードに関する考慮事項は、Insight Dynamics インストールガイド (『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』または『HP Insight Software 6.0 Installation and Configuration Guide』) を参照してください。また、後述の `--restore` オプションの記述にある注記も確認してください。

`-F| --clobber`

既存の Insight Dynamics データベースを、バックアップせずにクリアします。`vseinitconfig` でのこのオプションの影響については、`-a| --initconfig` および `-r| --unconfig` オプションの説明を参照してください。

`-q| --quiet`

出力を表示しません。初期構成操作後に、HP SIM を再起動しません。コンソールとログファイルのエラー出力が表示されます。

`-x restart_sim={true|false}`

このオプションでは、Insight Dynamics の初期構成後に、HP Systems Insight Manager を自動的に再起動するかどうかを選択します。これは、初期構成オプション (`-a` または `--initconfig`) や「構成解除」オプ

	ション (`-r` または `--unconfig`) と組み合わせた場合にのみ適用されます。 `-x restart_sim=true` を使用すると、すべての Insight Dynamics アプリケーションの構成が終わった後、確認の入力が求められることなく HP SIM は再起動されます。`vseinitconfig` が実行を完了した後、HP SIM が `mx...` コマンドに応答するための準備ができるまで、1 秒から 2 秒の遅延が発生する可能性があります。 `-x restart_sim=false` を使用すると、すべての Insight Dynamics アプリケーションの構成が終わった後、HP SIM を再起動せずにただちに戻ります。 このオプションを使用しない場合、すべての Insight Dynamics アプリケーションの構成が終わった後で、HP SIM を再起動するかどうかの入力が求められます。
`-r| --unconfig`	HP SIM から、インストールされている Insight Dynamics ツールを削除します。`--clobber` オプションあるいは `-F` オプションを指定しない限り、既存のデータベースや構成情報は削除されません。 **重要:** 省略可能な `--clobber` または `-F` オプションを指定すると、既存の Insight Dynamics データベースが削除されます。削除前にバックアップは作成されません。このコマンドを実行する前に Insight Dynamics データベースのバックアップを実行しなければ、gWLM および Capacity Advisor の構成と履歴データを含む Insight Dynamics のデータすべてが失われます。 Microsoft Windows CMS の場合、**`vseinitconfig -r`** はインストーラーによって自動的に起動されます。HP-UX CMS の場合は、ソフトウェアの削除前にコマンドを実行する必要があります (『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』を参照)。
`-b| --backup`	データの消失を防ぐために、gWLM および Capacity Advisor のデータを含む Insight Dynamics データベースをバックアップします。バックアップを実行するには、Insight Dynamics が初期化されている必要があります。Insight Dynamics の初期化に関する情報は、前述の `--initconfig` オプションの説明を参照してください。

注記: このオプションは、PostgreSQL データベースを使用している HP-UX が稼働する CMS 上でのみ使用できます。

バックアップは、-d オプションまたは --dir オプションで指定されたディレクトリに作成されます。このディレクトリは、空にしておくか、削除しておく必要があります。

このコマンドによって作成されるバックアップには、Insight Dynamics データのみが含まれます。HP SIM データベースのバックアップについては、http://www.hp.com/go/hpsim の Information Library にある『Backing up and restoring HP Systems Insight Manager data files in an HP-UX or Linux environment』ホワイトペーパーを参照してください。

CMS の再配置の準備としてバックアップを作成する場合、最初にすべての SRD (共有リソースドメイン) を配備解除することをお勧めします。こうすると、CMS を移動した後の SRD の再配備が容易になります。最新の履歴データがバックアップに含まれているか確認するには、以下の手順を実行する必要があります。

1. gWLM を使用して SRD を管理している場合、CMS 上で次のコマンドを実行します。

   ```
   gwlm history --flush
   ```

2. Capacity Advisor を使用している場合、CMS 上で次のコマンドを実行します。

   ```
   capcollect
   ```

-s| --restore

Insight Dynamics データベースを、-d オプションまたは --dir オプションで指定したディレクトリのバックアップから復元します。復元を実行する前に Insight Dynamics を初期化しておく必要があるので、データベースを置換するために --clobber オプションまたは -F オプションが必要になります。Insight Dynamics の初期化に関する情報は、前述の --initconfig オプションの説明を参照してください。

注記: このオプションは、PostgreSQL データベースを使用している HP-UX が稼働する CMS 上でのみ使用できます。

復元操作を実行するとき、HP SIM を停止する必要があります。HP SIM を停止するには、CMS で `mxstop` コマンドを実行します。復元操作の完了後、`mxstart` を使用して HP SIM を再起動します。

注記: CMSまたは管理対象システムがバックアップと復元の間に変更された場合(ホスト名の変更やプロセッサーの追加または削除など)は、復元後に、gWLMが予期しない動作をする場合があります。

注記: 旧バージョンの Insight Dynamics で作成したバックアップは復元できません。前のバージョンの Insight Dynamics データベースは、現在のバージョンのものと互換性がない可能性があります。現在のバージョンのソフトウェアをまだインストールしておらず、以前のバックアップから復元したい場合は、先に復元を実行してください。その後、新しいソフトウェアをインストールして初期化します。初期化処理で、すでに復元されたデータベースが現在の形式にアップグレードされます。

ソフトウェアをすでに更新しており、前のバージョンのソフトウェアで作成したバックアップから復元する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。

1. Insight Dynamics インストールガイド (『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』または『HP Insight Software 6.0 Installation and Configuration Guide』) の説明に従って Insight Dynamics を削除します。
2. そのリリースで出版されたインストール手順に従って、バックアップが作成されたバージョンのソフトウェアを再インストールします。
3. バックアップから Insight Dynamics データベースを復元します。
4. 現在のインストールガイドに従って、新しいバージョンの Insight Dynamics をインストールします。
5. 前述の `--initconfig` オプションの説明に従って、ソフトウェアを初期化します。これによって、復元されたデータベースが新しい形式にアップグレードされます。

VSE の削除と再インストール

Insight Dynamics を削除して再インストールすると、CMS 上での Capacity Advisor データの収集でデータの一部が欠落する場合があります。この問題を回避するには、Insight Dynamics

データベースをバックアップしてからInsight Dynamicsを削除し、Insight Dynamicsを再インストールしてからデータベースを復元します。

戻り値

0　コマンドが正常に完了し、エラーは検出されませんでした。

1　エラーが発生し、コマンドが正常に完了しませんでした。

例

Insight Dynamicsの初期構成を実行し、構成が完了した後にHP SIMを再起動するかどうかの入力を求めます。

```
vseinitconfig -a
```

Insight Dynamicsの初期構成を実行し、既存のInsight Dynamicsデータベースをバックアップせずに削除して、HP SIMを自動的に再起動します。

```
vseinitconfig -a -F -x restart_sim=true
```

長い形式のオプションを使用した場合の同じコマンドです。

```
vseinitconfig --initconfig --clobber -x restart_sim=true
```

Insight Dynamicsデータベースを`/var/backups/2009-09-01`ディレクトリにバックアップします。

```
vseinitconfig -b -d /var/backups/2009-09-01
```

長い形式のオプションを使用した場合の同じコマンドです。

```
vseinitconfig --backup --dir=/var/backups/2009-09-01
```

構成解除操作を実行し、Insight DynamicsツールをHP SIMから削除します。`--clobber`オプションによって、データベース情報はバックアップをとらずに削除されます。

```
vseinitconfig --unconfig --clobber
```

短い形式と長い形式のオプションを混在させることができます。たとえば、Insight Dynamicsデータベースをディレクトリ`/var/backups/2009-09-01`から復元するには、以下のコマンドを実行します。

```
vseinitconfig --restore -d /var/backups/2009-09-01 -F
```

著者

vseinitconfigは、HPによって開発されました。

リリースバージョン

Insight Dynamics 6.0

ファイル

`vseinitconfig`コマンドからのコンソール出力(エラー以外の出力)は、以下のログファイルに書き込まれます。

HP-UX:　`/var/opt/vse/logs/vseinitconfig_output.log`

Windows:　*`install-path`*`\logs\vseinitconfig_output.log`

`vseinitconfig`コマンドが報告するエラーおよび例外は、以下のログファイルに書き込まれます。

HP-UX:　`/var/opt/vse/logs/vseinitconfig.log`

Windows:　*`install-path`*`\logs\vseinitconfig.log`

Windows CMS上のデフォルトの *`install-path`* は`C:\Program Files\HP\Virtual Server Environment`ですが、このディレクトリはインストール時に変更されている可能性があります。

参照

`gwlmcmsd`(1M)、`gwlmsslconfig`(1M)、`mxglobalsettings`(1M)、`mxinitconfig`(1M)、`mxstart`(1M)、`mxstatus`(1M)、`mxstop`(1M)、`mxtool`(1M)、`mxtoolbox`(1M)、`mxuser`(1M)、

『HP Insight Dynamics – VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』、『HP Insight Software 6.0 Installation and Configuration Guide』、『HP Insight Dynamics 6.0 スタートガイド』

vselicense(1M)

名称

vselicense - HP Integrity システムおよび HP 9000 システムにおける使用権 (LTU) の管理

構文

パス (HP-UX): `/opt/vse/bin/vselicense`

パス (Windows): *`installation-directory`*`\bin\vselicense`

`vselicense { -? | -- help }`
(コマンドヘルプの表示)

`vselicense --usage`
(コマンド構文の表示)

`vselicense { -t | --tempLicense } { -n` *`sys`* `| --sys=`*`sys`* `}...`
(一時的なトライアルライセンスの適用)

`vselicense { -l` *`key`* `| --key=`*`key`* `} { -n` *`sys`* `| --sys=`*`sys`* `}... { -p` *`prod`* `| --prod=`*`prod`* `}`
(Integrity Windows/Linux LTU の移行と適用)

`vselicense { -m | --migrate } [ -g | --gwlm ] { -n` *`sys`* `| --sys=`*`sys`* `}...`
(HP-UX LTU のスキャンと移行)

`vselicense { -m | --migrate } { -c` *`count`* `| --count=`*`count`* `} { -n` *`sys`* `| --sys=`*`sys`* `}`
(システムに割り当てられたコアごとまたはソケットごとのライセンス数の訂正)

`vselicense { -m | --migrate } { -c 0 | --count=0 } { -n` *`sys`* `| --sys=`*`sys`* `}`
(システムに適用されたすべてのライセンスの削除)

`vselicense { -s | --show }`
(移行された LTU のある管理対象システムの一覧表示)

説明

`vselicense` コマンドは、Insight Dynamics によって中央管理サーバー (CMS) にインストールされます。このコマンドは、HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity の License to Use (LTU) のインストールおよび削除を行います。また、LTU に適用されたコアごとあるいはソケットごとのライセンス数を訂正するためにも使用できます。

このコマンドが該当するのは、HP-UX、Linux、あるいは Microsoft Windows が稼働する HP Integrity システム、あるいは HP-UX が稼働する HP 9000 システムだけです。このコマンドは、(VSE Management Software バージョン 4.0 で導入された)「5x5」キーに基づくライセンスには使用できません。Insight Dynamics に含まれているトライアルライセンス、あるいは以下のリストにある LTU に対してのみ使用されます。以前のバージョンの VSE Management Software、HP-UX VSE または DC オペレーティング環境からこれらの LTU をインストールしている可能性があります。

T2786AC	HP VSE Suite for HP-UX 11i LTU
T2784AC	HP Capacity Advisor for HP-UX LTU
T2782AC	HP Virtualization Manager for HP-UX LTU
T2762AA	HP Global Workload Manager Agent LTU
T2807AC	HP Capacity Advisor for Integrity Windows
T2806AC	HP Virtualization Manager for Integrity Windows
T2785AC	HP Capacity Advisor for Integrity Linux
T2783AC	HP Virtualization Manager for Integrity Linux

VSE Management Software バージョン 4.0 (A.04.00.07.*xx*) から、ライセンスが CMS 上の HP Systems Insight Manager (SIM) ライセンスマネージャーデータベースで管理されるようになりました。これらのライセンスは、5 つの数字あるいは文字の、5 ブロックで構成される「5x5」

キーにエンコードされています。これらのライセンスが CMS に追加されて、HP SIM を通じて管理対象システムに適用されます。

以前のバージョンのソフトウェアのライセンスや、HP-UX VSE あるいは DC オペレーティング環境に含まれているライセンスは、以前使用されていた場合 (ライセンスがインストールされてスキャンされていれば場合)、ライセンスマネージャーのデータベースに自動的に移行されます。これらのライセンスがインストールされていなかったり、スキャンされていなかった場合は、`vselicense` を使ってライセンスマネージャーのデータベースに移行できます (後述する「以前は使用されていなかったライセンスの移行」を参照)。

ライセンスされたコアあるいはソケットの数の訂正

Insight Dynamics - VSE for Integrity 製品は、HP Integrity 管理対象システムおよび HP 9000 管理対象システム上で、コアごとあるいはソケットごとにライセンスが付与されます。以前のリリースのライセンスや、HP-UX オペレーティング環境のライセンスが現在のバージョンに移行されるとき、管理対象システム上のコアあるいはソケットの数は WBEM クエリーによって特定されます。返される値が、そのシステムに割り当てられたライセンス数として使用されます。WBEM クエリーが正確な数を特定できなかった場合、ライセンスは 1 つ割り当てられます。

使用中のコア数あるいはソケット数に基づいて、正確な数のライセンスが管理対象システムに適用されていることを確認します。エンドユーザーライセンス契約を遵守するために、ライセンス移行プロセス中に割り当てられた数を訂正する必要があります。移行時に割り当てられた数を訂正するには、CMS 上で以下のコマンドを実行します。

```
vselicense -m -c count -n sys
```

count には、システム *sys* に割り当てるコアごとあるいはソケットごとの、正しいライセンス数を入力します。

以前は使用されていなかったライセンスの移行

当社とのライセンス契約で許可されている場合は、以前のリリースで購入したもののまだインストールやスキャンを行っていない未使用ライセンスを、`vselicense` を使って以下の手順でライセンスマネージャーデータベースに移行し、管理対象システムに適用することができます。これらの手順は、HP-UX VSE または DC オペレーティング環境に含まれている LTU を有効にする際にも使用する必要があります。

移行および適用するために HP-UX LTU をスキャンするには、これらの手順に従います (このスキャンは Insight Managed System Setup Wizard によって、または Insight Dynamics GUI から実行できます)。

1. 管理対象システム上に、未使用ライセンスのある HP-UX LTU をインストールするか、VSE または DC オペレーティング環境をインストールします。
2. CMS および管理対象システム間の通信で、共通の WBEM 証明書を確立するか、HP SIM で使用するために SSH を構成します。前のバージョンのソフトウェアでは、HP-UX LTU をスキャンするのに SSH が必要となります。Insight Dynamics 6.0 から、このスキャンは WBEM を使って行われます。WBEM を介したスキャンが失敗した場合にのみ SSH が使用されます。WBEM 証明書および SSH の構成についての詳細は、『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』を参照してください。

   管理対象システムで gWLM エージェントが稼働している場合は、エージェントと直接通信することで gWLM LTU (T2762AA) をスキャンすることも可能です。しかし、他の LTU についての情報はスキャンできません。このタイプのスキャンを実行するには `-g` オプションあるいは `--gwlm` オプションを使用します。

注記: gWLM のスキャンオプションは、バージョン 4.0 より前の gWLM エージェントに対してのみサポートされます。

3. CMS 上で以下のコマンドのうちいずれか 1 つを実行します (`-n sys` オプションを複数指定できます)。
   - WBEM あるいは SSH を使って T2786AC、T2784AC、T2782AC および T2762AA LTU をスキャンします。

     ```
     vselicense -m -n sys
     ```

- 稼働中の gWLM エージェントと通信することで T2762AA LTU をスキャンします。

  vselicense -m -g -n *sys*

注記: この操作が完了するのに長時間かかることがあります。

4. 必要であれば、上述の `-m` および `-c` オプションを指定した `vselicense` を使って、システムに割り当てられたコアごとまたはソケットごとのライセンス数を訂正します。

以下の手順で、未使用の HP Integrity Linux LTU あるいは HP Integrity Windows LTU を移行および適用します。

1. CMS 上で以下のコマンドを実行します (`-n sys` オプションを複数指定できます)。

   vselicense -l *key* -n *sys* -p *prod*

   key には、LTU 製品 *prod* に付属するライセンスキーを入力します。

注記: この操作が完了するのに長時間かかることがあります。

2. 必要であれば、上述の `-m` および `-c` オプションを指定した `vselicense` を使って、システムに割り当てられたコアごとまたはソケットごとのライセンス数を訂正します。

注記: `vselicense` による変更は、データの更新を行うまで製品のユーザーインターフェイスに表示されません (Capacity Advisor の [データの更新] リンクあるいは [ビジュアル化] タブの [データの更新] アイコンをクリックしてください)。

ライセンスマネージャーデータベースへの移行後、以前に購入した LTU が、HP SIM ライセンスマネージャー上の、以下の新しいライセンス名の下に表示されます。

HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity

移行前:
T2786AC HP VSE Suite for HP-UX 11i LTU

HP Insight Virtualization Manager ソフトウェア

移行前:
T2782AC HP Virtualization Manager for HP-UX LTU
T2806AC HP Virtualization Manager for Integrity Windows
T2783AC HP Virtualization Manager for Integrity Linux

HP Insight Capacity Advisor ソフトウェア

移行前:
T2784AC HP Capacity Advisor for HP-UX LTU
T2807AC HP Capacity Advisor for Integrity Windows
T2785AC HP Capacity Advisor for Integrity Linux

HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用)

移行前:
T2762AA HP Global Workload Manager Agent LTU

これらのライセンスのステータスを表示するには HP SIM ライセンスマネージャーを使用します (HP SIM メニューから [**展開**] -> [**ライセンスマネージャー...**] の順に選択し、表示されるリストから、新しいライセンス名の 1 つを選択します)。

オプション

`vselicense` コマンドは、以下のオプションを認識します。

`-t| --tempLicense`

`-n` オプションで指定したシステムに Insight Dynamics - VSE for Integrity のトライアルライセンスを適用します。Insight Dynamics を CMS にインストールすると、HP Insight Dynamics - VSE suite for Integrity の 10 個のトライアルライセンスがライセンスマ

ネージャーデータベースに格納されます。これらのライセンスを HP Integrity システムおよび HP 9000 システムに適用することができます。各トライアルライセンスの有効期間は、管理対象システムに適用されてから 90 日間です。トライアル期間が経過した後も継続的にシステムを管理できるようにするには、恒久ライセンスを購入する必要があります。

`-l` *`key`* | `--key=`*`key`*

`-n` オプションで識別されるシステム上に、`-p`オプションで識別されるLTU製品のライセンスキー *`key`* をインストールします。

`-n` *`sys`* | `--sys=`*`sys`*

HP SIM で識別されるシステム名。

注記: HP Integrity 仮想マシンは、VM ホストを通じてライセンスが付与されます。`vselicense` コマンドのターゲットとして、仮想マシンを指定することはできません。代わりに、VM ホストシステムをコマンドに指定します。

`-p` *`prod`* | `--prod=`*`prod`*

インストールまたは移行する LTU の製品番号。たとえば、`T2783AC` は、Linux が稼働する HP Integrity 管理対象システム用の Virtualization Manager LTU の製品番号です。

`-g`| `--gwlm`

gWLM LTU をスキャンするときに、管理対象システム上で稼働している gWLM エージェントと直接通信します。このオプションは、WBEM と SSH のいずれもが構成に使用できない場合にのみ使用します。このオプションを使う場合、スキャンによって検出されるのは gWLM LTU (T2762AA) のみです。他の LTU についての情報は返されません。このオプションは、バージョン 4.0 より前の gWLM エージェントに対してのみサポートされます。

`-m`| `--migrate`

LTU を HP SIM ライセンスマネージャーデータベースに移行します。

`-c` *`count`* | `--count=`*`count`*

`-n` オプションで識別されるシステムに適用する、コアごとあるいはソケットごとのライセンス数を設定します。このオプションは、指定されたシステム上にある、以前移行された LTU に対してのみ有効です。*`count`* の値に`0` を指定すると、そのシステムに移行されたすべての LTU がライセンスマネージャーデータベースから削除されます。

`-s`| `--show`

以前のソフトウェアリリースから移行されたライセンスがある管理対象システムを一覧表示します。

戻り値

0　コマンドが正常に完了し、エラーは検出されませんでした。

1　エラーが発生し、コマンドが正常に完了しませんでした。

2　警告が発生しました。詳細はコマンド出力を参照してください。

例

HP SIM が`linsys1`として識別されている管理対象システム上に、HP Integrity Linux Virtualization Manager (製品番号`T2783AC`) のライセンスを適用します。*`key`*値は、LTU の購入時に当社から入手します。

```
vselicense -l key -n linsys1 -p T2783AC
```

`uxsys2`という名前の HP-UX 管理対象システムにインストールされた LTU のライセンスを適用します。システムにインストールされているLTUをスキャンするのにWBEM(WBEMスキャンが失敗した場合は SSH) を使用します。

```
vselicense -m -n uxsys2
```

gWLM を使用して、HP-UX 管理対象システム上で T2762AA ライセンスをスキャンおよび適用します。

```
vselicense -m -g -n uxsys3
```

以前に移行されたライセンスのあるシステムで、コアごとあるいはソケットごとのライセンス数を`4` に訂正します。

```
vselicense -m -c 4 -n uxsys2
```

以前に移行され、管理対象システム`winsys4` に割り当てられていたライセンスをすべて削除します。

```
vselicense -m -c 0 -n winsys4
```

著者

vselicense は HP で開発されました。

リリースバージョン

Insight Dynamics 6.0

参照

追加情報については、Insight Dynamics ヘルプの「ライセンス管理」のトピックと、以下のドキュメントを参照してください。

`vseinitconfig`(1M)、『HP Insight Dynamics 6.0 スタートガイド』、『HP Insight Dynamics - VSE 6.0: Integrity CMS インストール/構成ガイド』、『HP Insight Software 6.0 Installation and Configuration Guide』

用語集

BladeSystem
HP BladeSystem は、**仮想マシン**、ストレージブレード、および**サーバーブレード**の組み合わせをサポートする、ボックス型のインフラストラクチャで、サーバーブレードコンピューターノード、データおよびストレージネットワークへの統合された接続、共有電源サブシステムからなります。

BladeSystem Integrated Manager
HP `BladeSystem` 製品ファミリ全体を効率的に管理するための HP Systems Insight Manager (SIM) のコンポーネント。ユーザーは、自動生成されるブレードラックの画像ビューや階層ツリーを使って、**サーバーブレード**、エンクロージャーインフラストラクチャ、ラック、統合スイッチなど、ユーザーの HP `BladeSystem` 環境を簡単にナビゲートできます。

BladeSystem エンクロージャー
サーバーブレードや、それをサポートするすべてのインフラストラクチャ要素 (ストレージ、ネットワーク、電源など) を 1 つの装置に統合するためのハードウェアソリューション。

CMS
中央管理サーバー。HP SIM ソフトウェアを実行する管理ドメイン内のシステム。HP SIM 内のすべての中心操作は、このシステムから起動されます。

EVA
HP StorageWorks Enterprise Virtual Array。EVA は、大容量のストレージニーズに応えるだけでなく非常にクリティカルなアプリケーションもサポートできる、デザインイン型の仮想化を提供します。

fss グループ
Fair-Share Scheduler グループ。HP-UX fss サービスによって CPU 割り当てが管理されるプロセスのグループ。fss グループを利用することにより、コア全体だけでなくコアの一部をグループ内のプロセスに割り当てることができます。

GiCAP
HP Global Instant Capacity。Instant Capacity コンポーネントの使用権 (RTU) をサーバーのグループ内で移動できるソフトウェア。

iCAP
HP Instant Capacity。HP Utility Pricing ソリューション製品を使用すると、2 段階の購入モデルを通じて、追加の処理能力を購入およびインストールすることができます。まず始めに、使用権は含まれていないので、正規価格の何分の 1 かの費用でシステムコンポーネント (**コア**、**セル**ボード、メモリ) を購入します。これらの Instant Capacity コンポーネントは非アクティブですが、インストールされており使用できる状態です。追加のキャパシティが必要になったときには、正規価格の残りを支払い、コンポーネントを使用開始するための使用権を購入します。コンポーネントの正規価格が、使用権を購入する時期までに下がっている場合、支払金額は減少します。

以前のバージョンの iCAP は instant Capacity on Demand (iCOD) と呼ばれていました。

LTU
License To Use。

MSA
HP StorageWorks Modular Smart Array。MSA は直接接続の外付け共有ストレージソリューションであり、これにより直接接続から集中ストレージへの移動が簡単になります。これは、部門または中小企業において要求の増大に応じて容量を増やすことを可能にします。

nPartitions
1 つ以上の**セル**と 1 つ以上の I/O コンポーネントで構成される、**セルベースサーバー**内の**パーティション**。各 nPartitions は他の nPartitions から独立して動作し、それぞれがオペレーティングシステムの単一インスタンスを実行するか、さらなる**仮想パーティション**に分割されます。

いくつかの要件を満たせば、nPartitions は、HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) が管理する**コンパートメント**として使うことができます。nPartitions の要件の説明は、gWLM のオンラインヘルプを参照してください。

pset
プロセッサーセット。グループ化された一連のプロセッサー。そのプロセッサーセットに割り当てられたアプリケーションが排他的にアクセスできます。各アプリケーションは、割り当てられたプロセッサーセット内のプロセッサー上でのみ動作します。

Serviceguard クラスター
HP Serviceguard クラスターは、HP 9000 サーバーや HP Integrity サーバー (ノードと呼ばれるホストシステム) をネットワーク上で 1 つのグループにまとめたもので、十分な冗長性を持つソフトウェアとハードウェアを備えており、深刻なサービスの中断を発生させるような単一障害点を持ちません。

Serviceguard パッケージ
パッケージは、HP Serviceguard が構成されたアプリケーションを起動および停止するための手段です。パッケージは、サービス、ディスクボリューム、IP アドレスの集まりであり、それらが常に使用できるように Serviceguard によって管理されます。

Serviceguard ワークロード
Serviceguard クラスターとクラスター内の特定の**パッケージ**に関連付けられた**監視対象ワークロード**。ワークロード (と報告される使用率データ) は、クラスターのノード間を移動する際に、関連付けられたパッケージに従います。

SMI-S
Storage Management Initiative Specification。SMI-S は、オープンなストレージネットワーク管理インターフェイステクノロジーであり、ストレージエリアネットワークで管理されるすべてのオブジェクトと、それらを管理するために使うツールを統一するためのものとして、「すべてのストレージが SMI インターフェイスによって管理される」ようになることを目指しています。

SRD
共有リソースドメイン。HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) が管理するシステムリソースを共有する**コンパートメント**の集合。コンパートメントは、nPartitions、**仮想パーティション**、**仮想マシン**、**プロセッサーセット** (pset)、Fair-Share Scheduler (fss) **グループ**のいずれかです。

nPartitions を含むサーバーは、nPartitions の要件が満たされているかぎり SRD として利用できます。これらの要件については、「gWLM の最大活用」トピックで詳しく説明されています。

仮想パーティションに分割されたサーバーまたは nPartitions は、その仮想パーティションコンパートメントの SRD として利用できます。VM **ホスト**はその仮想マシンの SRD として利用できます。同様に、pset を含むサーバー、nPartitions、仮想パーティションは、その pset コンパートメントの SRD として利用できます。最後に、fss グループを含むサーバー、nPartitions、仮想パーティションは、その fss グループコンパートメントの SRD として利用できます。

nPartitions を持つコンプレックスは複数の SRD を保持できます。たとえば、コンプレックスが Par1 および Par2 という名前の nPartitions に分割されている場合、Par1 のコンパートメントを仮想パーティションにし、Par2 のコンパートメントを pset にすることができます。

SSL
Secure Sockets Layer。ID を検証したり、サーバーと Web ブラウザー間の暗号化された接続を確立するためのプロトコル。

TiCAP
Temporary Instant Capacity。ユーザーが一定の (一時的な) 期間、コアを使用開始する権利を事前に購入できる HP 製品。temporary capacity は 30 プロセッサー日単位で販売されています。TiCAP は以前は「TiCOD」と呼ばれていました。

Utilization Provider
管理対象システムのリアルタイム使用率データを提供する WBEM サービスプロバイダー。

VCEM
Virtual Connect Enterprise Manager。サーバーベイごとにサーバー接続プロファイルを定義するための管理ツール。このプロファイルは、すべての Network Interface Controller (NIC) の Media Access Control (MAC) アドレス、すべてのホストバスアダプター (HBA) の World Wide Name (WWN)、SAN ブートパラメーターを確立します。サーバーベイ内のサーバーブレードを交換しても、構成と接続のプロファイルは変わりません。

VM ホスト
HP Integrity Virtual Machines、VMware ESX、VMware ESXi、または Microsoft Hyper-V を実行し、複数の**仮想マシン**を提供するサーバー。各マシンでは、オペレーティングシステムの独自のインスタンスが稼働します。

vPars
仮想パーティションを提供する HP ソフトウェア製品。

vPars モニター
vPars が利用可能なシステムで、**仮想パーティション**へのリソースの割り当てを管理するプログラム。仮想パーティションを有効にするには、通常の HP-UX カーネルではなく vPars モニターをブートする必要があります。すると、モニターのもとで動作している各仮想パーティションが自身の HP-UX カーネルをブートします。

WBEM
Web-Based Enterprise Management。Distributed Management Task Force, Inc.によって開発された Web ベースの情報サービス標準セット。WBEM プロバイダーはリソースへのアクセスを提供します。WBEM クライアントは、登録済みのリソースに関する情報の取得要求、およびアクセス要求をプロバイダーに送信します。

WMI
Windows Management Instrumentation。Insight Dynamics は、WMI を使用して、Microsoft Windows を実行する管理対象システムからデータを収集します。WMI のクエリーおよび応答は、WMI Mapper によって WBEM に変換されます。

アクティブ論理サーバー
HP SIM 管理対象システムおよび**ワークロード**の両方にバインドされており、また特定のストレージにもバインドされている**論理サーバー**。アクティブ論理サーバーの状態は、電源オンか電源オフのいずれかです。

エージェント
ユーザーの直接的な介入なしで、定期的に情報を収集したり、他のサービスを実行したりするプログラム。Insight Dynamics は、管理対象システム上のエージェントに依存して、ハードウェアおよびソフトウェアの詳細な情報を提供します。システムによっては、エージェントレスデータ収集を構成できる場合もあります。

仮想パーティション
各仮想パーティションがオペレーティングシステムの独自のインスタンスを実行できる、サーバーまたは 1 つの nPartitions のソフトウェアパーティション。仮想パーティションは、nPartitions 境界を越えることはできません。

仮想マシン
HP Integrity Virtual Machines、VMware ESX、VMware ESXi、または Microsoft Hyper-V によって提供されるソフトウェアエンティティ。このテクノロジーにより、1 つのサーバーまたは (Integrity Virtual Machines を含む)nPartitions が複数の個々の仮想マシンに対する VM ホストとして機能でき、それぞれの仮想マシンがオペレーティングシステムの独自のインスタンス (ゲスト OS と呼びます) を実行できるようになります。仮想マシンは、Insight Dynamics では管理対象システムです。

監視対象ワークロード
HP Insight Virtualization Manager ソフトウェアによって監視できるが、**ポリシー**が関連付けられていない**ワークロード**。監視対象ワークロードは HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) によって管理されません。

管理対象システム
HP SIM によって CMS から管理可能なサーバーなどの**システム**。管理対象システムは複数の CMS によって管理できます。

管理対象ワークロード
HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) によって管理される**ワークロード**。

管理ドメイン
CMS とその**管理対象システム**。

供給 (プロビジョン)
コンポーネントを使用できるようにする機能。ソフトウェアやハードウェアコンポーネントのインストール、アップグレード、ロードおよび構成が含まれます。サーバーのプロビジョンには適切なソフトウェア (オペレーティングシステムおよびアプリケーション) のロード、システムのカスタマイズと構成、そしてサーバーと新しくロードしたソフトウェアの開始を行うことができます。これにより、システムを操作できるようになります。

コア
プロセッサー内で実際にデータの処理を行うエンジン。シングルプロセッサーにマルチコアが搭載され、コアが複数の実行スレッドをサポートしている場合があります。

コンパートメント
HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) によってリソースが割り当てられる nPartitions、**仮想パーティション**、**仮想マシン**、または**リソースパーティション**。

複数のコンパートメントがグループ化されて、**共有リソースドメイン** (SRD) を形成します。これらのコンパートメントは、SRD 内のリソースをすべて共有します。各コンパートメントは 1 つの SRD にだけ属することができます。コンパートメントはそれぞれ 1 つの**ワークロード**を保持します。gWLM はコンパートメントのリソース割り当てを調整し、各ワークロードのリソース割り当てを管理します。

コンプレックス
コンプレックスには、1 つ以上の相互接続されたキャビネットと、それらに属するすべてのハードウェアリソースが含まれます。コンプレックスには 1 つの**サービスプロセッサー**が含まれます。

サーバーブレード
1 つ以上のマイクロプロセッサーとメモリを搭載した、モジュール方式で自己完結型の薄型コンピューターサーバー。サーバーブレードは高密度設計になっており、従来のラックマウント型システムには付きものの電源コードやネットワークケーブルといった多くの部品がありません。HP BladeSystem は、ホットプラグ対応ハードドライブ、複数の I/O カード、多機能ネットワークインターコネクト、Integrated Lights-Out といったテクノロジーをサポートしています。

サービスプロセッサー
nPartitions をサポートする HP サーバーの独立したサポートプロセッサー。サービスプロセッサーは、サービスレベルコマンド、nPartitions をリセットおよびリブートするためのコマンド、さまざまなパラメーターを構成するためのコマンドのメニューを提供します。

HP サーバーのサービスプロセッサーは、管理プロセッサー (MP) や障害管理プロセッサー (GSP) と呼ばれる場合もあります。

システム
1. オペレーティングシステムのインスタンスを実行しているサーバー、nPartitions、**仮想パーティション**、**仮想マシン**。

2. TCP/IP または IPX を介して通信するネットワーク上のエンティティ。システムを管理するには、何らかのタイプの管理プロトコル (SNMP、DMI、WBEM など) がシステム上に存在している必要があります。システムの例としては、サーバー、ワークステーション、デスクトップコンピューター、携帯用コンピューター、ルーター、スイッチ、ハブ、ゲートウェイなどがあります。

セル

すべて 1 つのセルコントローラー (CC) によって制御される、プロセッサーとメモリを搭載した回路ボード。セルは、**コンプレックス**内の nPartitions の基本的な構造ブロックです。

セルベースサーバー

すべての**コア**やメモリが**セル**に搭載されているサーバー。各セルは、特定の nPartitions に割り当てて排他的に使うことができます。各 nPartitions は、オペレーティングシステムの独自のインスタンスを実行します。

ソケット

(CPU ソケット)。CPU チップを収納する、回路基盤上の物理的チップキャリア。1 つの CPU は、複数の**コア**で構成される場合があります。

待避ワークロード

現在システムに関連付けられていない**ワークロード**。ワークロードのシステムが、作成時またはその後の変更時に「なし」に設定された場合、ワークロードは待避されます。以前、システムに関連付けられていた待避ワークロードには、HP Insight Capacity Advisor ソフトウェアまたは HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) の履歴データが関連付けられている場合があります。すべてのワークロードと同様に、ワークロードを削除すると履歴データが失われます。

システム間でワークロードを移行する場合は、新しいシステムが使用可能になるまで、元のシステムとの関連付けを削除してワークロードを待避するのが有用な場合があります。こうすると、移行を行ってもワークロードの履歴データが保持されます。

パーティション

1. **コア**、メモリ、I/O リソースを含む、オペレーティングシステム (OS) が動作可能なサーバーハードウェアのサブセット。このタイプのパーティションを利用すると、1 つのサーバーから各パーティション上で他のパーティションとは独立して OS を実行できます。
2. 1 つの OS 内で動作する**リソースパーティション**。Fair-Share Scheduler (fss) **グループ**または**プロセッサーセット**からなります。このタイプのパーティションは、OS 内のリソース割り当てを制御します。

ポリシー

HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) が管理する**ワークロード**リソースを制御するルールと設定の集合。ポリシーでは、たとえばワークロードに貸し出せる最小および最大の CPU リソースの量や達成すべき目標値を指示することができます。

1 つのポリシーを複数のワークロードに関連付けることも可能です。

リソースパーティション

オペレーティングシステムのインスタンスにとって使用可能なリソースのサブセット。特定のプロセスで使うために分離されています。リソースパーティションには、自身のプロセススケジューラがあります。パーティション内の CPU リソースは、Fair-Share Scheduler (fss) **グループ**または**プロセッサーセット**を使って割り当てられます。パーティションへのリソースの割り当てを制御するポリシーは、HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) を使って設定できます。

論理サーバー

HP Insight Virtualization Manager ソフトウェアの機能。論理サーバーとは、ユーザーが作成し、使用開始し、物理マシンあるいは**仮想マシン**内で動作するように割り当てる構成とメタデータのセットです。**アクティブ論理サーバー**をある位置から別の位置に移動し、特性を変更することができます。この機能によってエンクロージャーを配置し、サーバーの負荷分散を実行し、障害発生時にサーバーを退避することができます。また、必要な時だけリソースを**供給** (**プロビジョン**) し、上限が設けられたコンピューターリソースの使用率を向上することができます。

ワークロード

スタンドアロンサーバー、nPartitions **コンパートメント**、**仮想パーティション**コンパートメント、または**仮想マシン**コンパートメントのプロセスの集合。HP Insight Global Workload Manager ソフトウェア (Integrity 用) (gWLM) ではこの概念が拡張され、**プロセッサーセット** (pset) コンパートメントと Fair-Share Scheduler (fss) **グループ**コンパートメントも含まれます。gWLM では、**ポリシー**に基づきコンパートメントへのリソース割り当てを自動的に調整することで、ワークロードの監視と管理を可能にしています。

索引

記号
64 ビット CMS サポート, 9

A
Application Discovery, 9, 31

C
Capacity Advisor, 9, 26
  シナリオ, 26
Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア, 14, 26
Central Management Server (参照 CMS)
CMS, 7
  64 ビットサポート, 9
  CMS 構成のチェック, 33
  CMS と管理対象ノードの構成のチェック, 34
  HP-UX CMS のインストール, 7
  Windows CMS のインストール, 7
  メモリ要件, 33

G
Global Workload Manager, 9, 31
gWLM (参照 Global Workload Manager)

H
HP Insight Capacity Advisor (参照 Capacity Advisor)
HP Insight Control (参照 Insight Control)
HP Insight Global Workload Manager (参照 Global Workload Manager)
HP Insight Operations Orchestration (参照 Operations Orchestration)
HP Insight Orchestration (参照 Insight Orchestration)
HP Insight Recovery (参照 Insight Recovery)
HP Insight Virtualization Manager (参照 Virtualization Manager)
HP Insight ソフトウェア (参照 Insight ソフトウエア)
HP Instant Capacity
  Instant Capacity, 7
HP Instant Capacity Manager (参照 Instant Capacity Manager)
HP SIM (参照 Systems Insight Manager)
HP-UX オペレーティング環境, 21
HP へのフィードバック, 37

I
Insight Control, 13
Insight Orchestration, 9, 27
Insight Recovery, 9, 29
Insight ソフトウェア, 7
Instant Capacity, 21, 31
Instant Capacity Manager, 31
Integrity Virtual Machines Manager, 9, 32

L
Linux
  エージェントレスデータ収集, 23

M
Managed System Setup Wizard, 9, 15, 23, 33
Microsoft Windows
  エージェントレスデータ収集, 24
msswinitconfig, 7

O
Operations Orchestration, 29

P
Partition Manager, 32
PowerBroker, 23

R
root アクセス, 23

S
SIM (参照 Systems Insight Manager)
SPM (参照 Storage Provisioning Manager)
Storage Provisioning Manager, 9, 30
sudo, 23

U
Utilization Provider, 23

V
VCEM (参照 Virtual Connect Enterprise Manager)
Virtual Connect Enterprise Manager, 13, 14, 25
Virtual Server Environment, 7
Virtualization Manager, 9, 25
VM Manager (参照 Integrity Virtual Machines Manager)
VSE (参照 Virtual Server Environment)
VSE Management ソフトウエア, 7
vseassist, 9, 36, 46
vseinitconfig, 7, 51
vselicense, 19, 59

W
Web サイト, 39
Windows (参照 Microsoft Windows)

い
以前のリリースからのアップグレード, 23
インストール
  HP-UX CMS, 7
  Windows CMS, 7

え
エージェント
  不要なエージェントの削除, 23
エージェントレスデータ収集, 23

か
管理対象システム
  CMS と管理対象ノードの構成のチェック, 34

管理対象ノードの構成チェック, 35
関連情報, 37

き
機能
このリリースでの新規事項, 9
共有リソースドメイン, 31

け
権限昇格, 23

こ
構成
CMS 構成のチェック, 33
CMS と管理対象ノードの構成のチェック, 34
Managed System Setup Wizard, 9, 15, 23, 33
管理対象ノードの構成チェック, 35
コマンド
msswinitconfig, 7
vseassist, 9, 36, 46
vseinitconfig, 7, 51
vselicense, 19, 59
リファレンスページ, 40

さ
サービスとサポート, 37
サブ OS ワークロード, 24
サポートマトリックス, 7

し
[診断] メニュー, 33

て
ディザスタリカバリ, 9, 29

と
当社への連絡, 37
トラブルシューティング, 33

ひ
表記規約, 42

ほ
ホワイトペーパー, 37

ま
マニュアル, 37
マンページ, 40

め
メモリ要件, 33

よ
要件
サポートマトリックス, 7
メモリ, 33
用語集, 65
リンク, 8

ら
ライセンス
Capacity Advisor Consolidation ソフトウェア, 14
HP 9000, 13
HP Instant Capacity 製品, 21
HP-UX オペレーティング環境, 21
HP-UX ライセンスのスキャン, 21
HP 製以外のサーバー, 14
Insight Control, 13
Integrity, 13, 19, 21
Managed System Setup Wizard での適用, 15
ProLiant, 13
以前のリリースからの移行, 21
エンドユーザーライセンス契約, 12
管理, 11
管理対象システム, 7
追加および適用, 15
適用する順序, 15
トライアル, 11, 19
モデル, 11
ライセンスが付与されていないシステム, 15
ライセンスマネージャー, 16
ライセンスマネージャーでの適用, 15
ライセンスが付与されていないシステム, 15
ライセンスマネージャー, 15, 16

り
リモートコマンドの実行, 23

ろ
論理サーバー, 9, 25

わ
ワークロード
アップグレード時に削除されるサブOSワークロード, 24